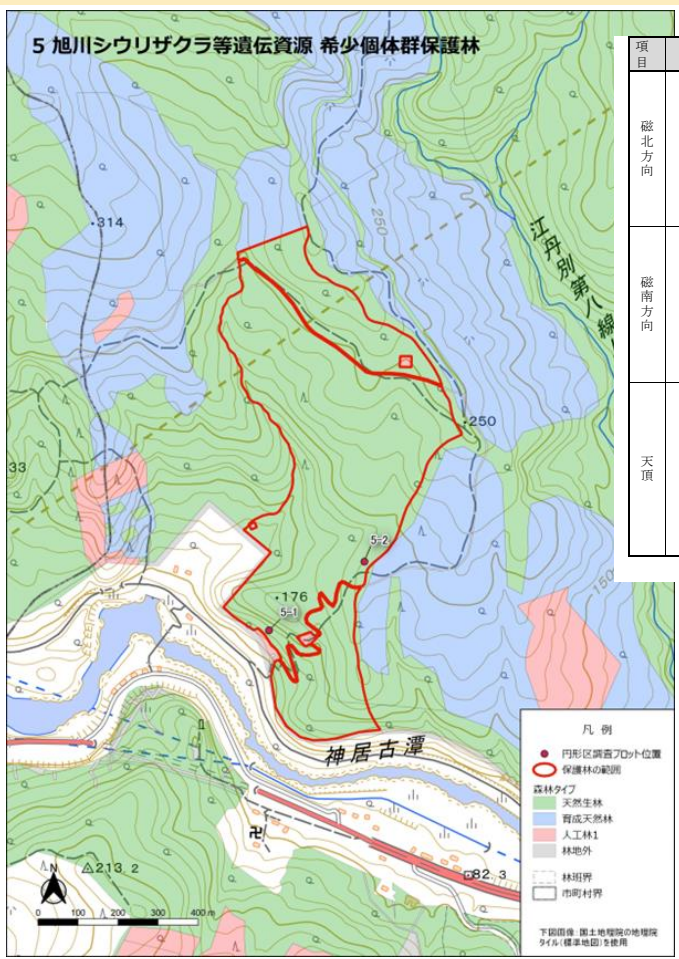


3. モニタリング調査結果報告

3-3. 希少個体群保護林（37箇所）

3-3.希少個体群保護林 (1/7)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況	調査周期	評価・課題・対応(案)
5	31109	旭川シウリザクラ等遺伝資源希少個体群保護林 (41ha)	シウリザクラ、アズキナシ	H25	・森林詳細調査 (2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾイタヤ、オオバボダイジュ等を優占種とする林分である。 ・プロット1では、亜高木層、低木層に保護対象種のシウリザクラやアズキナシが確認された ・プロット2では、保護対象種はほとんど確認されなかった。 ・天然更新は、多くはないが確認された。全体的に、樹林としては比較的良好な状況である。 	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
6	31203	金山幾寅ハリギリ等遺伝資源希少個体群保護林 (6ha)	ハリギリ、キハダ、イヌエンジュ	H25	・森林詳細調査 (2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾイタヤ、ウダイカンバ、イヌエンジュを優占種とし、亜高木層、低木層に保護対象種のキハダやハリギリが確認された。 ・多くはないが、天然更新も確認され、良好な状況である。 	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
7	32101	東ヌプカウシ山コマクサ希少個体群保護林 (15ha)	コマクサ	H25	<ul style="list-style-type: none"> ・森林詳細調査 (2箇所) ・保護対象植物調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダケカンバ低木林及び下層植生の状況に大きな変化はなく、コマクサの良好な生育状況が確認された。 	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
8	31901	喜登牛高山植物希少個体群保護林 (185ha)	高山植物	H25	<ul style="list-style-type: none"> ・森林詳細調査 (2箇所) ・保護対象植物調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林の状況に大きな変化はなく、高山植物の良好な生育状況が確認された。 	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
9	31101	旭川チョウセンカラマツ遺伝資源希少個体群保護林 (10ha)	チョウセンカラマツ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・両プロットとも健全な林分であるが、やや遷移が進んでいる。 ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は多数存在していると考えられる。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。 	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
10	31102	神居古潭カツラ等遺伝資源希少個体群保護林 (14ha)	カツラ、オニグルミ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロット1は遷移が進んでおり、カツラは見られないが、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・プロット2では、カツラの大経木が確認された。 ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は存在していると考えられる。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。 	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

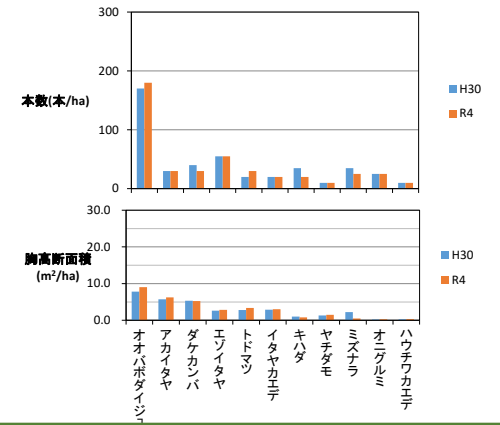
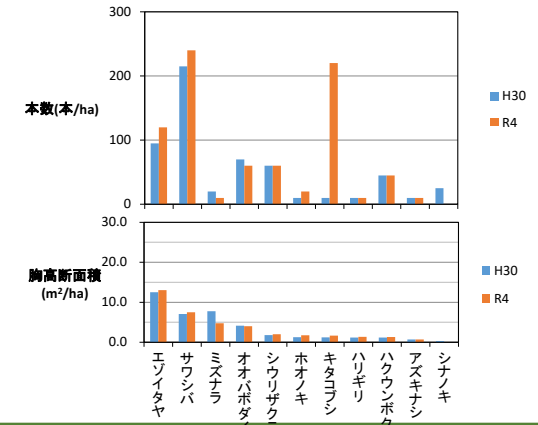


プロット1

項目	H30	R4
磁北方向		
磁南方向		
天頂		

プロット2

項目	H30	R4
磁北方向		
磁南方向		
天頂		



保護林名	旭川シウリザクラ等遺伝資源希少個体	
保護対象種	シウリザクラ、アズキナシ	
プロットNo.	5-1	5-2
旧No.	31109-1	31109-2
調査日	2022/8/13	2022/8/13
プロット情報	標高	記載なし
	斜面方位、傾斜(平均)	SW 30°
	局所地形	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要構成樹種	エゾイタヤ、オオバボダイジュ
	【高】樹高	10~20m
	【高】DBH	30cm以上
	最大樹高樹種	ミズナラ
	最大直径樹種	ミズナラ

攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ食痕、糞あり	エゾシカ食痕、糞あり
------------------	------------	------------

林床植生	林床で優占する植物種	ジュウモンジシダ	クマイザサ
	林床植生密度[B1]	密生している	密生している
	植生高	0.5~1.5m	0.5~1.5m

保護林の状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない
--------	--------------------	-------------------------

林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
--------	--------------	--------------

評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

確認された影響[特になし]

- エゾイタヤ、オオバボダイジュ等を優占種とする林分である。
- プロット1では、亜高木層、低木層に保護対象種のシウリザクラやアズキナシが確認された。
- プロット2では、保護対象種はほとんど確認されなかった。

保護対象種はやや少ないので、巡視等により遷移の状況、エゾシカの影響や気象害等を注視していく。

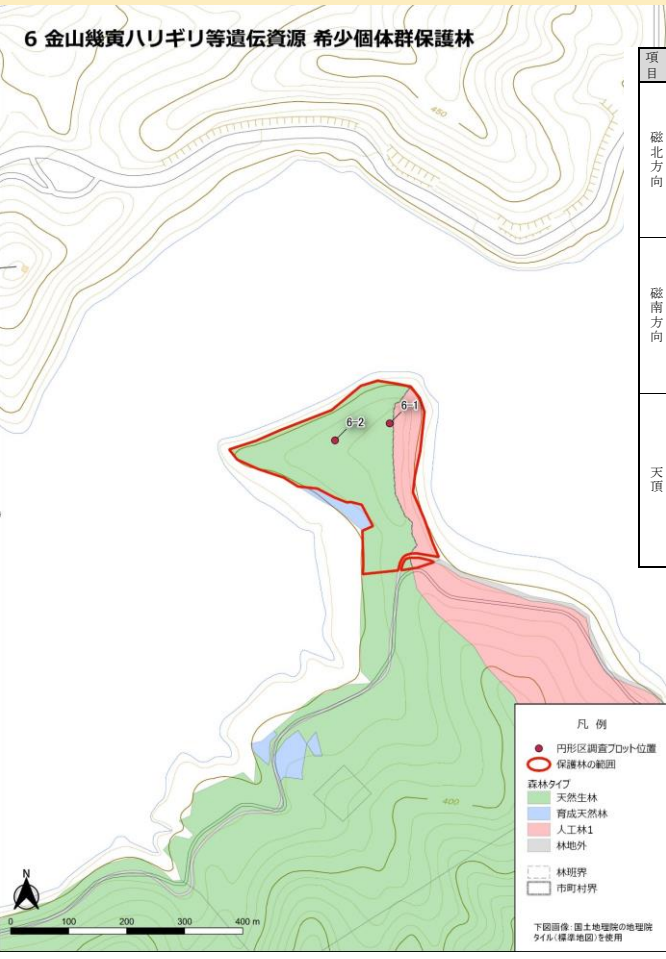


シウリザクラの稚樹

6 金山幾寅ハリギリ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)

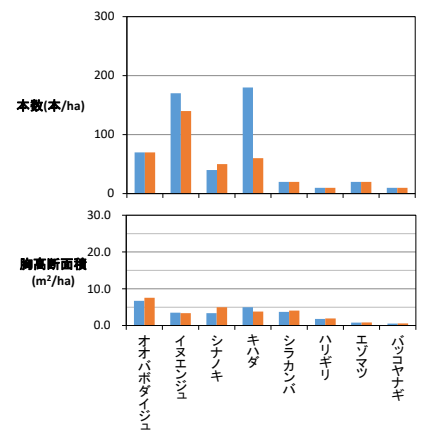
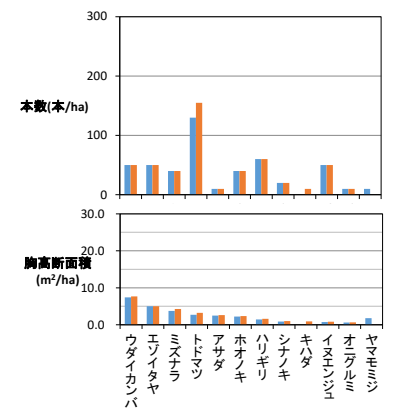


プロット1

項目	H30	R4
磁北方向		
磁南方向		
天頂		

プロット2

項目	H30	R4
磁北方向		
磁南方向		
天頂		



保護林名		金山幾寅ハリギリ等遺伝資源希少個	
保護対象種		ハリギリ、キハダ、イヌエンジュ	
プロットNo.		6-1	6-2
旧No.		31203-1	31203-2
調査日		2022/8/30	2022/8/30
プロット情報	標高	-	-
	斜面方位、傾斜(平均)	NW 7°	N 7°
	局所地形	平坦尾根	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要構成樹種	ウダイカンバ、エゾイタヤ	オオハボダイジュ、イヌエンジュ
	【高】樹高	17~29m	17~25m
	【高】DBH	25~58cm	25~60cm
	最大樹高樹種	ハリギリ	シラカンバ
	樹高	28.5m	25.1m
	最大直径樹種	アサダ	シラカンバ
直径	57.9cm	60.1cm	
攪乱状況	なし	なし	
病虫害	なし	なし	
獣類痕跡【C1】	エゾシカ	エゾシカ	
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカのササ食痕が多い	エゾシカのササ食痕、糞多数あり	
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	林床植生密度[B1]	密生している	密生している
	植生高	0.5~1.5m	0.5~1.5m
天然更新状況[A3]	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	
保護林の状況	ハリギリ、キハダ、イヌエンジュは散見される。林床はササが密生するが、シナノキ、ミズナラの実生は見られる。	ハリギリ、キハダ、イヌエンジュは散見される。林床はササが密生するが、ウダイカンバ、エゾイタヤの実生は見られる。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	

確認された影響[特になし]

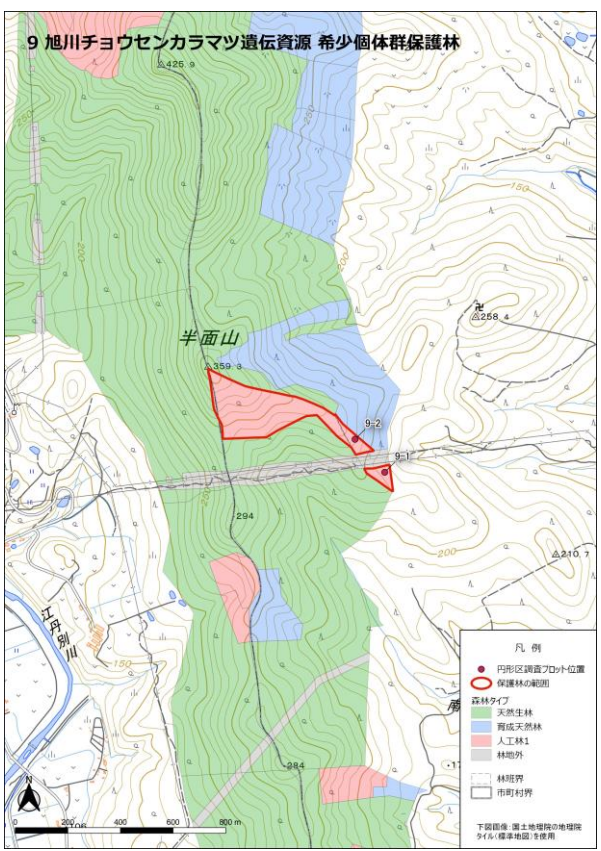
- ・エゾイタヤ、ウダイカンバを優占種とし、亜高木層、低木層に保護対象種のキハダ、ハリギリ、イヌエンジュが確認された。
- ・多くはないが、天然更新も確認され、良好な状況である。
- ・引き続き巡視等、モニタリングにより経過を観察していく。



ハリギリの高木

希少種情報のため非公開

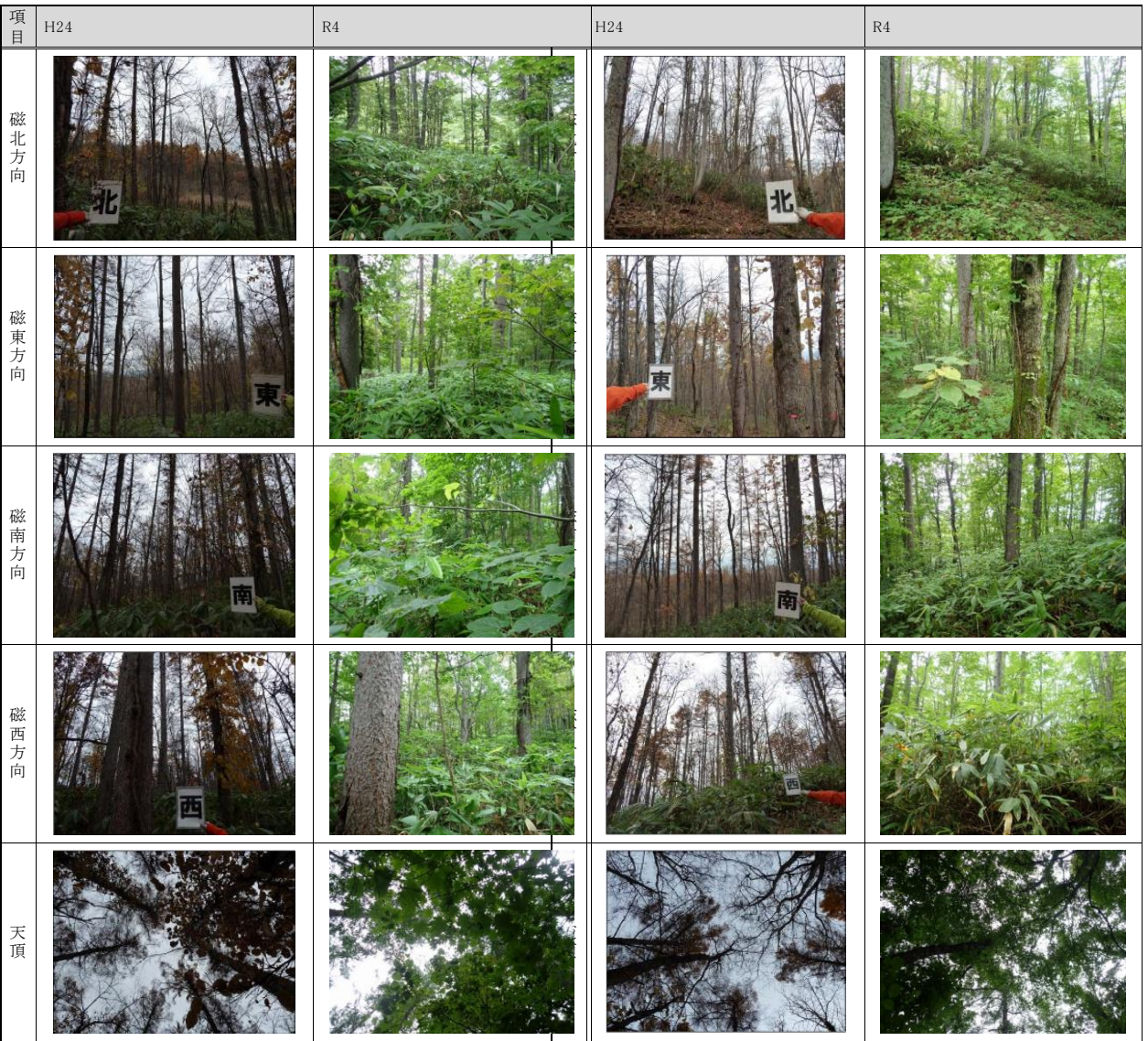
希少種情報のため非公開



プロットNo.	9-1	9-2
旧No.	K6-56-1	K6-56-2
調査日	2022/8/1	2022/8/1
標高	238m	268m
プロット情報	方位、傾斜 NW、12°	SE、13°
	局所地形 山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種 チョウセンカラマツ 【高】植被率 70% 【高】樹高 20~30m 【高】DBH 25~42cm	チョウセンカラマツ、シナノキ 70% 21~28m 20~46cm
擾乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	特になし	特になし
林床植生	林床で優占する植物種 クマイザサ 植被率 90% 植生高 1.3~2.3m	クマイザサ、ツタウルシ 80% 0.1~1.7m
保護林の状況	チョウセンカラマツの天然更新は見られない。	チョウセンカラマツの天然更新は見られず、広葉樹の侵入が進んでいる。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然擾乱 カ:その他 -:特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロット1

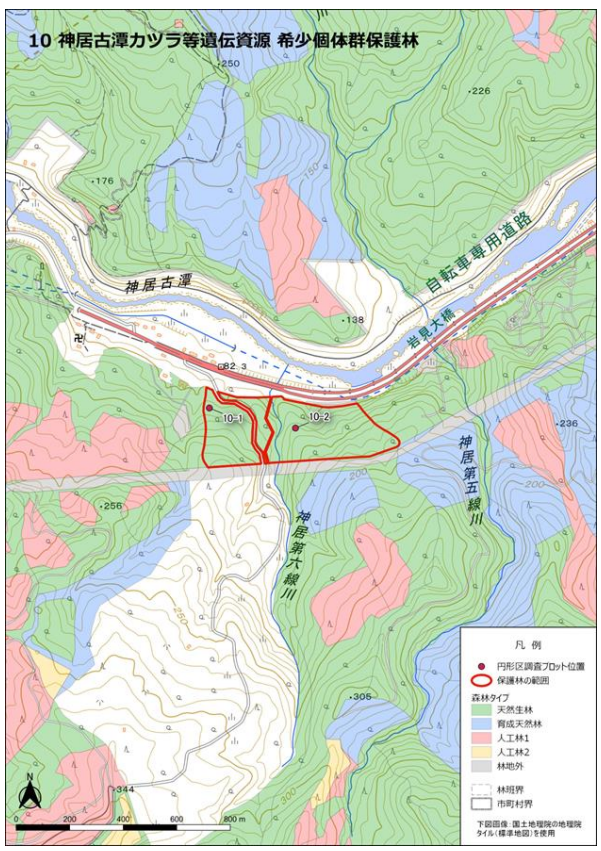
プロット2



確認された影響[特になし]
 ・両プロットとも健全な林分であるが、やや遷移が進んでいる。
 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。
 ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



チョウセンカラマツの高木



プロットNo.	10-1	10-2
旧No.	K5-55-1	K5-55-2
調査日	2022/8/1	2022/8/1
プロット情報	標高 107m	125m
方位・傾斜	NE、15°	NE、18°
局所地形	山腹平衡斜面	平坦尾根
【高】主要種	トドマツ、オオバボダイジュ	カツラ、オオバボダイジュ
【高】植被率	60%	30%
【高】樹高	18~30m	18~35m
【高】DBH	30~60cm	28~112cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ糞、シカ道あり	ネズミ食痕あり、エゾシカ糞、シカ道あり
林床植生	林床で優占する植物種 植被率 植生高	チシマザサ クマイザサ 90% 0.4~1.9m
保護林の状況	遷移が進んでおり、プロット内にカツラは見られない。オニグルミの天然更新はわずかに見られる。	保護林内にカツラ大径木は点在する。カツラおよびオニグルミの天然更新は見られない。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロット1

プロット2



確認された影響[特になし]

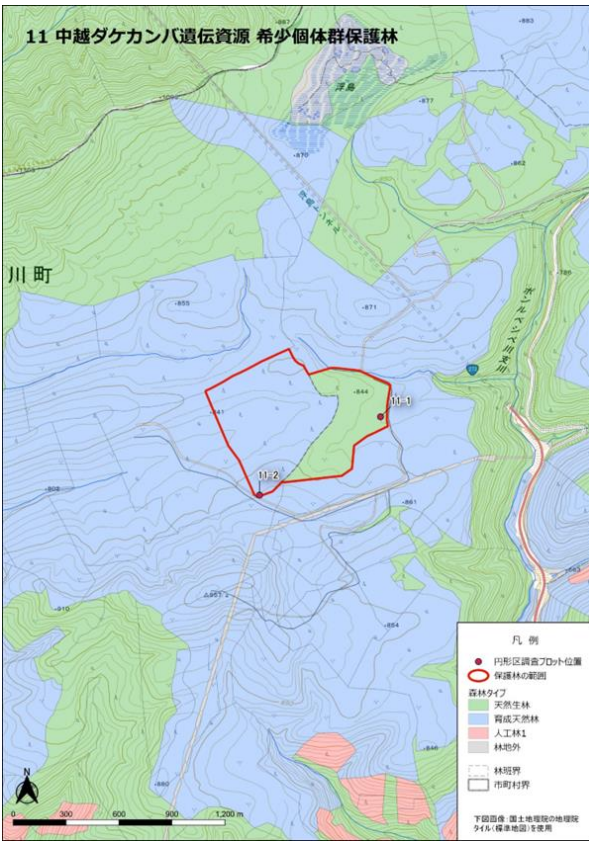
- ・プロット1は遷移が進んでおり、カツラは見られないが、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・プロット2では、カツラの大径木が確認された。
- ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



カツラの高木

3-3.希少個体群保護林 (2/7)

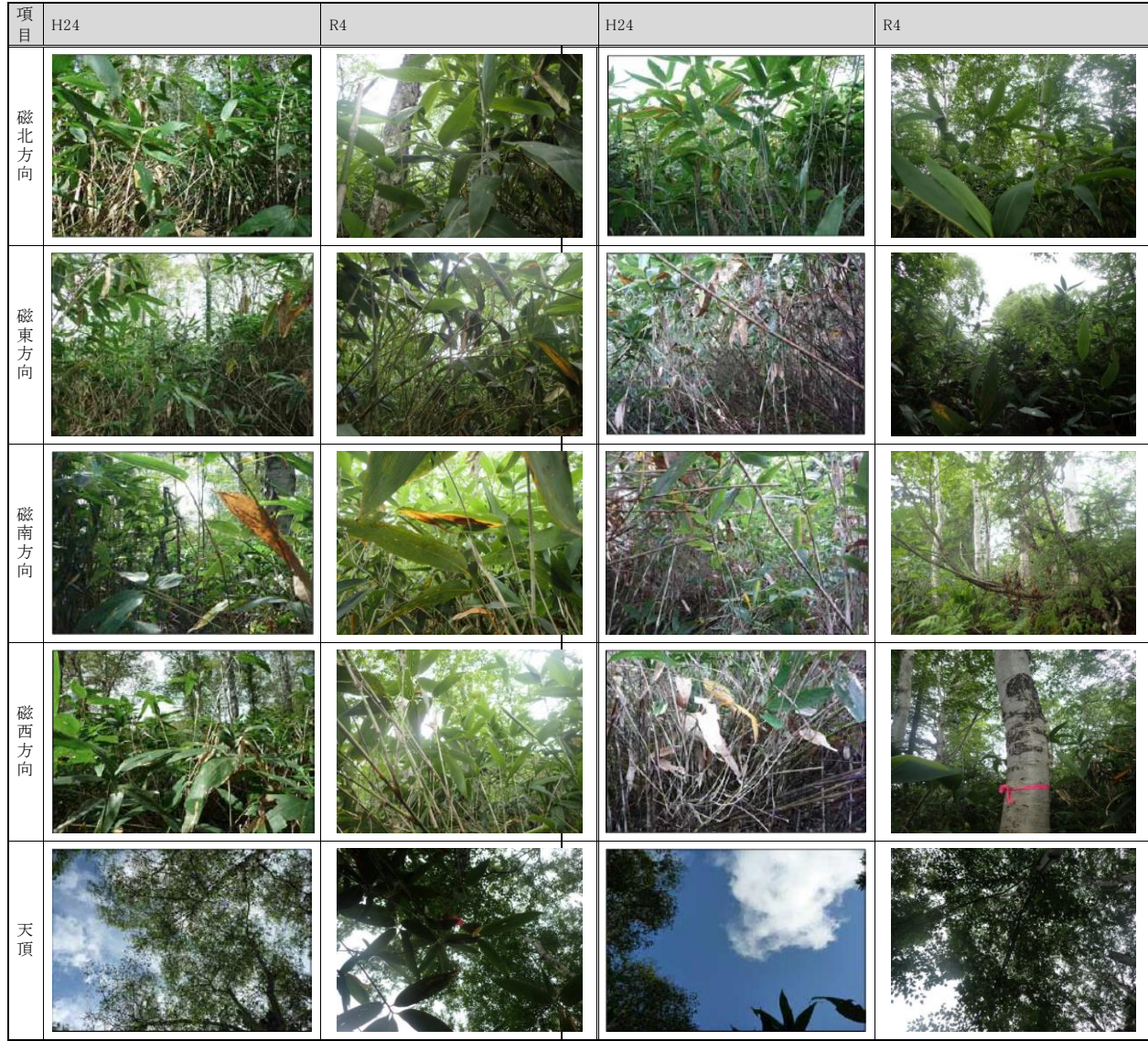
No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況	調査周期	評価・課題・対応(案)
11	31103	中越ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林(55ha)	ダケカンバ	H24	・森林概況調査(2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロット1は、ダケカンバの大径木も確認され、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・プロット2では、一部風害も確認された。 ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は存在していると考えられる。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。 	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
12	31104	大雪石狩エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林(70ha)	エゾマツ	H24	・森林概況調査(2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロット1、プロット2とも、エゾマツの大径木が確認された。 ・天然更新もみられ、埋土種子は多数存在していると考えられる。 ・林況に大きな変化はなく、概ね健全な更新も期待出来る林分である。 	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
13	31105	層雲峡シロエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林(2ha)	エゾマツ(シロエゾマツ)	H24	・森林概況調査(2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・シロエゾマツ、エゾマツの大径木が確認された。 ・天然更新もみられ、埋土種子は多数存在していると考えられる。 ・林況に大きな変化はなく、概ね健全な更新も期待出来る林分である。 	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
14	31106	朗根内カンバ類遺伝資源希少個体群保護林(12ha)	ダケカンバ、ウダイカンバ	H24	・森林概況調査(2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・全プロットとも、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが密生しているため実生、稚樹は確認されなかった。 ・埋土種子は多数存在していると考えられる。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。 	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
15	31107	美瑛チョウセンヤマナラシ遺伝資源希少個体群保護林(4ha)	チョウセンヤマナラシ	H24	・森林概況調査(2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロット1、プロット2とも林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが密生しているが、天然更新も確認された。 	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
16	31108	美瑛カンバ類遺伝資源希少個体群保護林(23ha)	シラカンバ、ウダイカンバ	H24	・森林概況調査(2箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロット1は健全であったが、プロット2では一部立ち枯れがみられた。 ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は存在していると考えられる。 ・林況に大きな変化はなく、概ね健全な更新も期待出来る林分である。 	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。



プロットNo.	11-1	11-2
旧No.	K2-52-1	K2-52-2
調査日	2022/8/9	2022/8/9
標高	840m	872m
方位、傾斜	0°	N、9°
局所地形	台地	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種 ダケカンバ 【高】植被率 80% 【高】樹高 18~25m 【高】DBH 20~60cm	【高】主要種 ダケカンバ 【高】植被率 80% 【高】樹高 16~23m 【高】DBH 20~50cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	特になし	軽微な風倒あり
林床植生	林床で優占する植物種 チシマザサ 植被率 100% 植生高 0.1~3.5m	チシマザサ 90% 0.1~3.5m
保護林の状況	林床はササが密生しており、ダケカンバの天然更新は見られない。	調査跡はあるが、中心杭のみ発見されず。周辺の状況から中心杭を再現。ダケカンバの古い倒木が散見されるが、ギャップにダケカンバ小~中径木が生育している。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロット1

プロット2

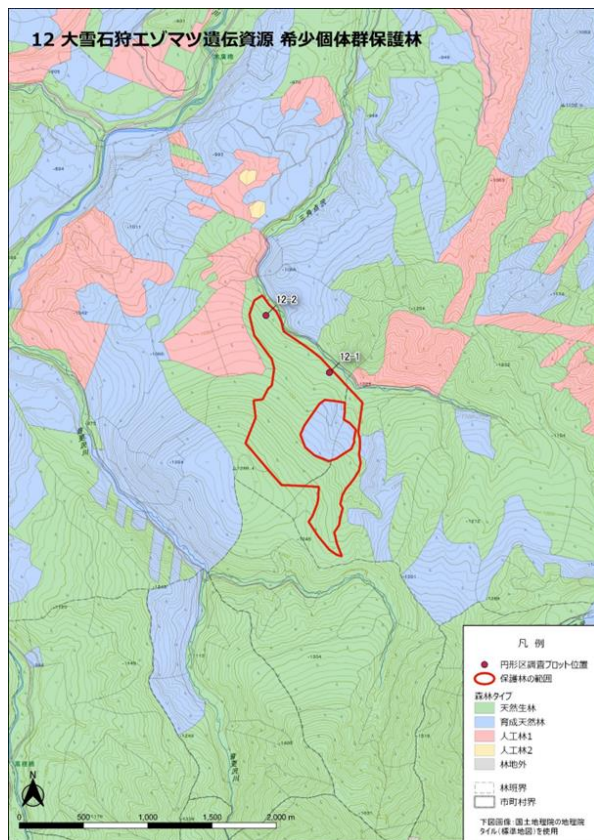


確認された影響[特になし]

- ・プロット1は、ダケカンバの大径木も確認され、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



ダケカンバの高木



プロットNo.		12-1	12-2
旧No.		K3-53-1	K3-53-2
調査日		2022/8/2	2022/8/2
プロット情報	標高	1035m	1011m
	方位、傾斜	NW、21°	NE、9°
	局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種	エゾマツ、トドマツ	エゾマツ、トドマツ
	【高】植被率	60%	70%
	【高】樹高	22~30m	18~28m
	【高】DBH	33~65cm	35~89cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント		エゾシカ痕跡が多く見られるが、保護対象種への影響はない	エゾシカ痕跡が多く見られるが、保護対象種への影響はない
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	70%	70%
	植生高	0.2~1.2m	0.2~1.0m
保護林の状況		エゾマツの大径木あり。林床にトドマツ実生が多く見られる。エゾマツ実生は見られないが、幼木は散見される。	エゾマツの実生、稚樹、幼木が倒木、伐根上に見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロット1

プロット2

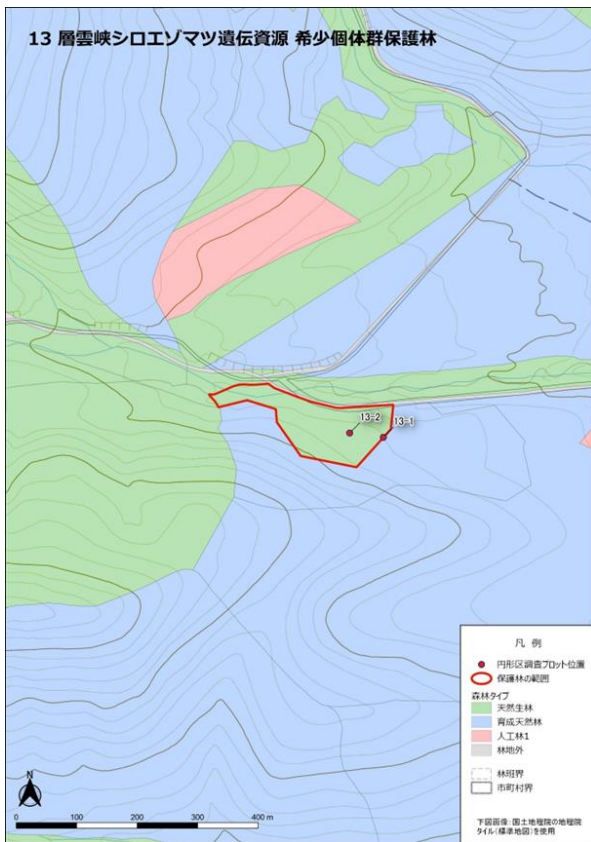
項目	プロット1		プロット2	
	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				
磁南方向				
磁西方向				
天頂				



エゾマツの高木

確認された影響[特になし]

- ・プロット1、プロット2とも、エゾマツの大径木が確認された。
- ・林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。



プロットNo.		13-1	13-2
旧No.		K4-54-1	K4-54-2
調査日		2022/8/3	2022/8/3
プロット情報	標高	1044m	1039m
	方位、傾斜	NE、3°	NE、5°
	局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種	シロエゾマツ	シロエゾマツ、ダケカンバ
	【高】植被率	60%	70%
	【高】樹高	24~31m	26~28m
	【高】DBH	23~76cm	30~75cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント		エゾシカの下層植生の植痕がわずかに見られる	エゾシカによる剥皮あり(主にトドマツ)
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	80%	80%
	植生高	0.4~1.6m	0.4~1.6m
保護林の状況		プロット内の倒木上やギャップにエゾマツ、シロエゾマツの実生、稚樹が見られる。	プロット内の倒木、伐根上にトドマツやシロエゾマツの稚樹が見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロット1

プロット2

項目	プロット1		プロット2	
	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				
磁南方向				
磁西方向				
天頂				



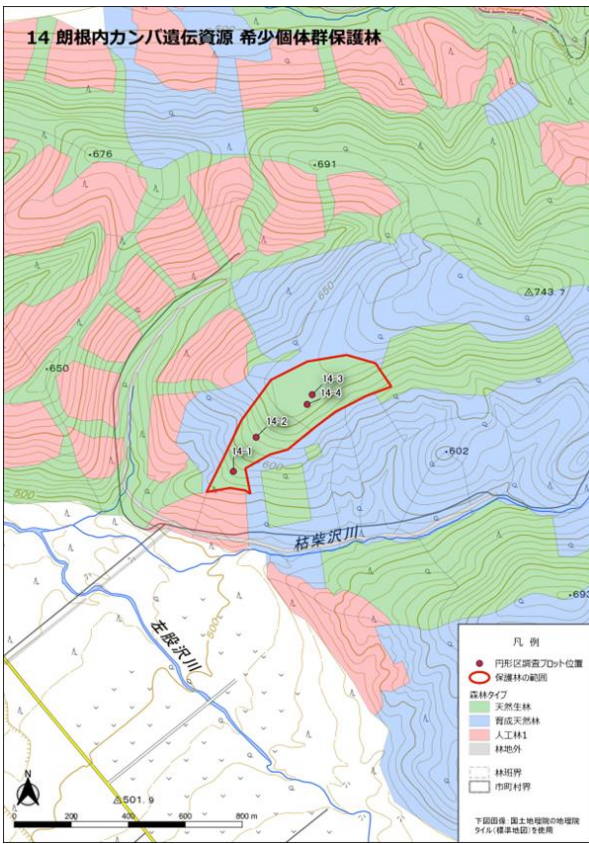
エゾマツの倒木更新

確認された影響[特になし]

- ・シロエゾマツ、エゾマツの大径木が確認された。
- ・林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・天然更新もみられ、埋土種子は多数存在していると考えられる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

14 朗根内カンバ類遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 森林概況調査(4箇所)



		プロット1		プロット2	
項目	H24	R4	H24	R4	R4
磁北方向					
磁東方向					

		プロット3		プロット4	
項目	H24	R4	H24	R4	R4
磁北方向					
磁東方向					

プロットNo.	14-1	14-2	
旧No.	K7-58-1	K7-58-2	
調査日	2022/9/1	2022/9/1	
プロット情報	標高	597m	638m
	方位、傾斜	SW、10°	SW、23°
	局所地形	平坦尾根	平坦尾根
林分状況	【高】主要種	ウダイカンバ、ダケカンバ	ダケカンバ、ウダイカンバ
	【高】植被率	70%	80%
	【高】樹高	22~27m	20~24m
	【高】DBH	28~45cm	24~54cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	特になし	特になし	
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	100%	100%
	植生高	1.7~2.2m	1.5~2.1m
保護林の状況	林床はササが密生し、天然更新は見られない。	林床はササが密生し、天然更新は見られない。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	

プロットNo.	14-3	14-4	
旧No.	K5-59-1	K5-59-2	
調査日	2022/9/1	2022/9/1	
プロット情報	標高	673m	669m
	斜面方位、傾斜(平均)	SE、4°	NE、8°
	局所地形	平坦尾根	平坦尾根
林分状況	【高】主要構成樹種	ダケカンバ、ウダイカンバ	ダケカンバ、ウダイカンバ
	【高】植被率	70%	70%
	【高】樹高	20~29m	22~28m
	【高】DBH	26~31cm	28~45cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	特になし	特になし	
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	100%	100%
	植生高	1.5~2.0m	1.4~2.0m
保護林の状況	林床はササが密生し、天然更新は見られない。	林床はササが密生し、天然更新は見られない。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	



ウダイカンバの高木

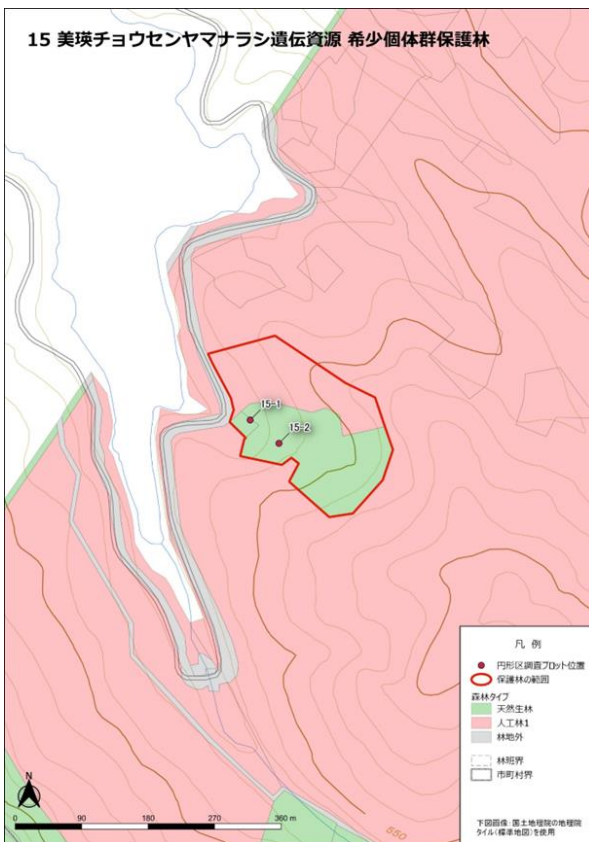
確認された影響[特になし]

- ・全プロットとも、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は多数存在していると考えられる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

15 美瑛チョウセンヤマナラシ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

森林概況調査(2箇所)



プロットNo.		15-1	15-2
旧No.		K10-61-1	K10-61-2
調査日		2022/8/4	2022/8/4
プロット情報	標高	536m	549m
	方位、傾斜	NW、9°	NW、10°
	局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
	林分状況	【高】主要種 【高】植被率 【高】樹高 【高】DBH	チョウセンヤマナラシ 30% 23~28m 35~42cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント		風倒木、エゾシカの糞 少数あり	わずかな風倒木あり
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	100%	100%
	植生高	1.2~2.5m	1.2~2.5m
保護林の状況		チョウセンヤマナラシの実生は見られないが、稚樹、実生、幼木、低木が見られ天然更新は順調である。	チョウセンヤマナラシの実生、稚樹、実生、幼木、低木が見られ天然更新は順調である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

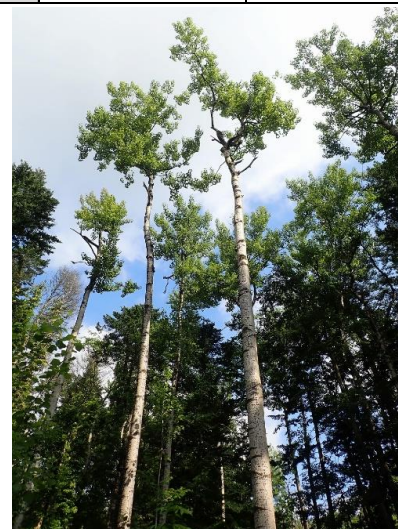
プロット1

プロット2

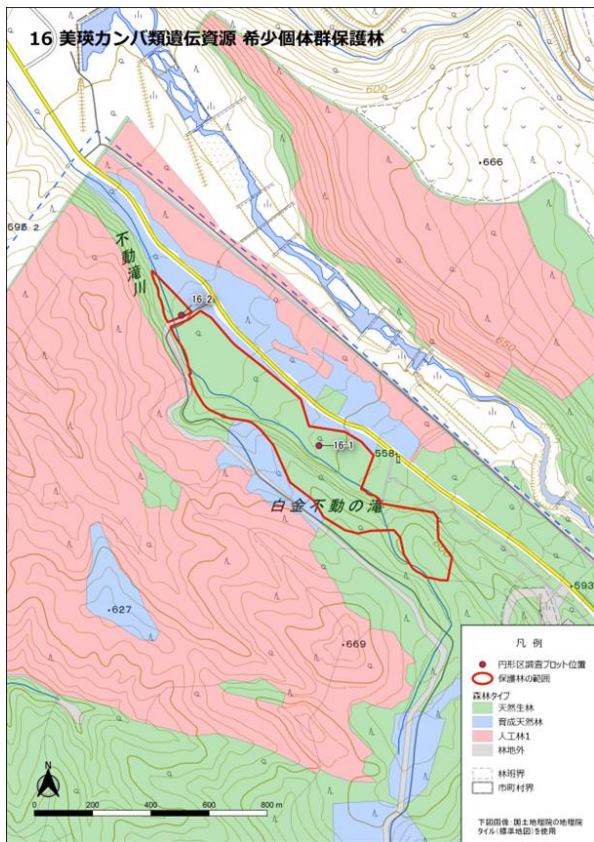
項目	プロット1		プロット2	
	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				
磁南方向				
磁西方向				
天頂				

確認された影響[特になし]

- ・プロット1、プロット2とも林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・林床ではササが密生しているが、天然更新も確認された。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



チョウセンヤマナラシの高木



プロットNo.	16-1	16-2
旧No.	K11-73-1	K11-73-2
調査日	2022/8/5	2022/8/5
プロット情報	標高	560m
	【高】傾斜	NW、3°
	【高】植被率	40%
	【高】樹高	20~26m
局所地形	沖積堆積地	沖積堆積地
【高】DBH	ウダイカンバ	ウダイカンバ、シラカンバ
	40%	30%
	20~26m	20~26m
25~37cm	28~38cm	
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	特になし	特になし
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ
	植被率	100%
	植生高	1.5~1.8m
保護林の状況	林床はササが密生し、保護対象種のシラカンバ、ウダイカンバの天然更新は見られない。ウダイカンバの立ち枯れが少数見られる。	林床はササが密生し、保護対象種のシラカンバ、ウダイカンバの天然更新は見られない。ウダイカンバの立ち枯れが少数見られる。
	林分等の状況	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

項目	プロット1		プロット2	
	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				
磁南方向				
磁西方向				
天頂				

確認された影響[特になし]
 ・プロット1は健全であったが、プロット2では一部立ち枯れがみられた。
 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。
 ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



ウダイカンバの高木

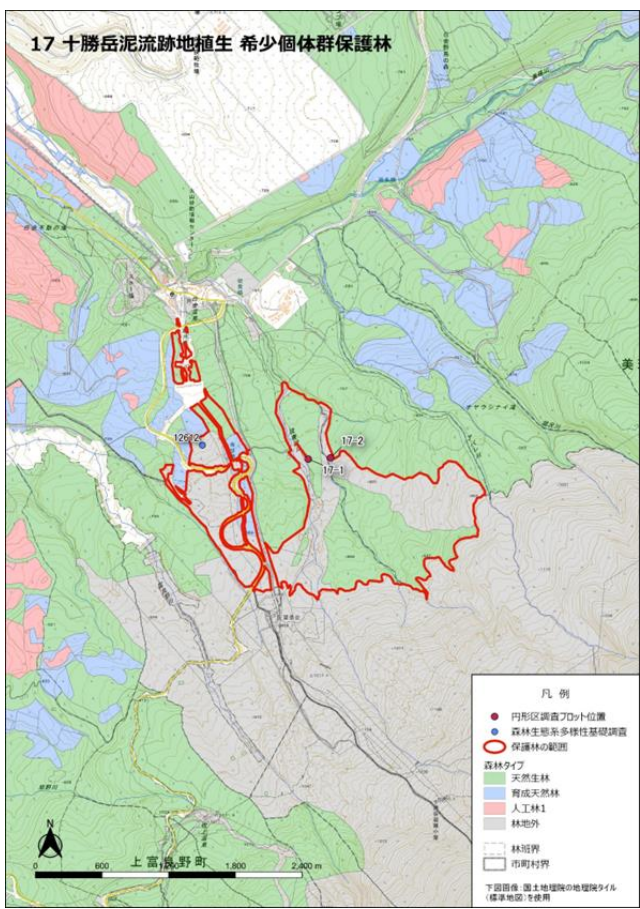
シラカンバの高木

3-3.希少個体群保護林 (3/7)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況	調査周期	評価・課題・対応(案)
17	31110	十勝岳泥流跡地植生希少個体群保護林 (254ha)	泥流跡地植生	H24	・森林概況調査 (2箇所) ・森林生態系多様性基礎調査 (1箇所)	・ダケカンバを優占種とし、その下にアカエゾマツが生育しており、森林の回復が確認された。 ・保護林モニタリング地点では、ササが密生しているが、森林生態系地点では、プロット内にやや湿った箇所があり、イソツツジも生育していた。 ・泥流の跡地に森林が成立していく過程の林分である。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
18	31201	上富良野カンバ類遺伝資源希少個体群保護林 (6ha)	ダケカンバ、ウダイカンバ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1は、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・プロット2では、一部ウダイカンバの根上がりが確認されたが、概ね健全であった。 ・林床ではササが密生しているが、天然更新も確認された。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
19	31202	金山トドマツ等遺伝資源希少個体群保護林 (11ha)	トドマツ、アカエゾマツ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・天然更新も多く確認された。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
20	31301	芭露カシワ遺伝資源希少個体群保護林 (119ha)	カシワ	H24	・森林概況調査 (3箇所)	・全地点で、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は存在していると考えられる。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
21	31302	上丸瀬布ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林 (9ha)	ウダイカンバ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・両プロットとも、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は存在していると考えられる。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
22	31303	瀬戸瀬イヌエンジュ遺伝資源希少個体群保護林 (21ha)	イヌエンジュ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに遷移が進んでおり、ミズナラ、シラカンバが優占する林分となっており、保護対象種は少ない。 ・林況に大きな変化はなく健全な状態といえる。 ・林床は、比較的すいており、様々な広葉樹の天然更新が確認された。 ・今後も広葉樹林としての遷移がなされていく林分である。	10年	確認された影響[その他] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

17 十勝岳泥流跡地植生希少個体群保護林

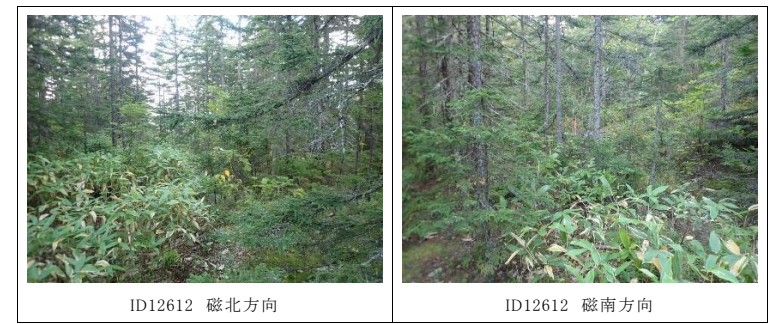
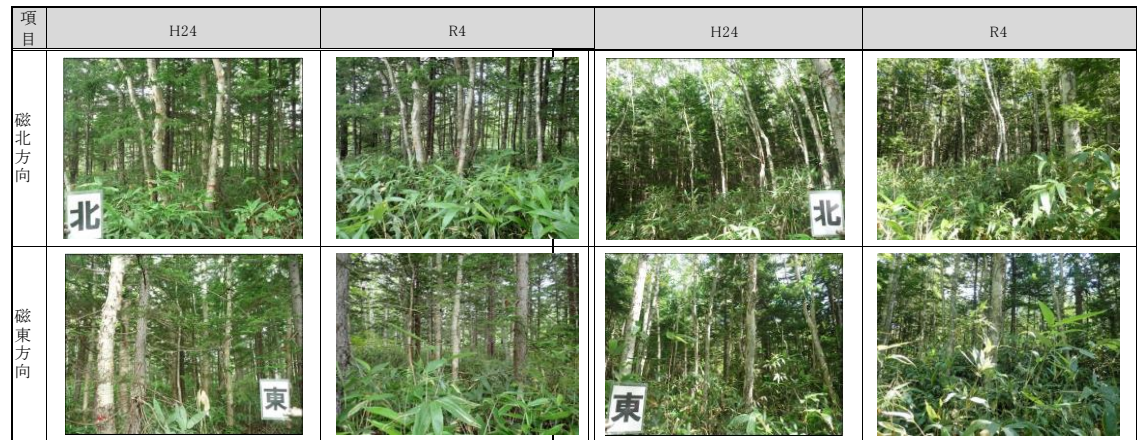
実施した現地調査 森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)



保護林 プロット1

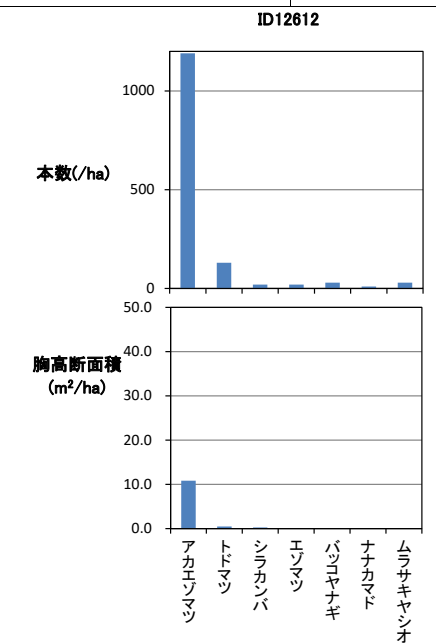
保護林 プロット2

森林生態系多様性基礎調査 ID12612

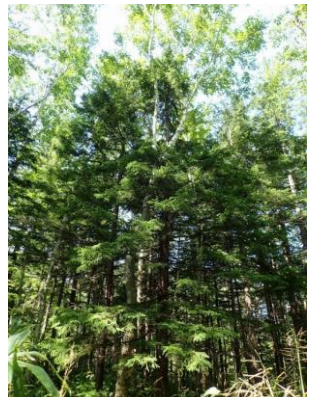


項目	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				

プロットNo.	17-1	17-2
旧No.	K16-167-1	K16-167-2
調査日	2022/8/4	2022/8/5
標高	769m	781m
方位・傾斜	NW、6°	NW、8°
局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種 ダケカンバ、アカエゾマツ 【高】植被率 70% 【高】樹高 18~22m 【高】DBH 23~33cm	【高】主要種 ダケカンバ 【高】植被率 70% 【高】樹高 18~25m 【高】DBH 25~57cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	特になし	特になし
林床植生	林床で優占する植物種 クマイザサ 植被率 100% 植生高 1.5~2.3m	林床で優占する植物種 クマイザサ 植被率 90% 植生高 0.8~2.0m
保護林の状況	林床はササが密生するが、密度の低い場所ではアカエゾマツの天然更新が見られる。	アカエゾマツの天然更新は小円内には見られないが、プロット内の倒木や根返り跡に実生、稚樹、幼木、低木が散見される。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う



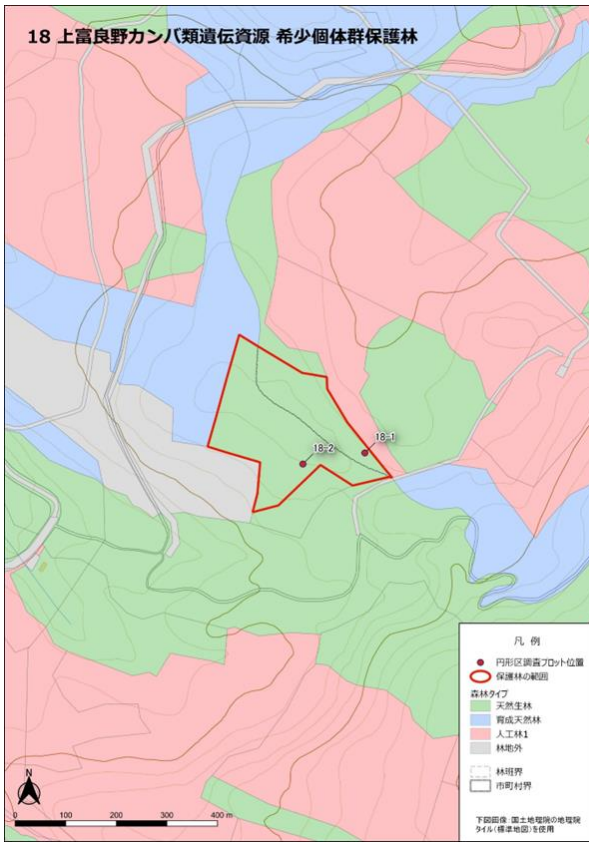
ID	優占種	発達段階	高木層		亜高木層		施業形跡	被害情報
			高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
12612	アカエゾマツ	天然更新(施業なし) 成熟	8 ~ 12	70%	4 ~ 8	10%	なし	



ダケカンバの下にアカエゾマツが生育する

確認された影響[特になし]

- ・ダケカンバを優占種とし、その下にアカエゾマツが生育しており、森林の回復が確認された。
- ・泥流の跡地に森林が成立していく過程の林分である。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



プロットNo.	18-1	18-2
旧No.	K19-62-1	K19-62-2
調査日	2022/8/4	2022/8/4
標高	628m	635m
方位、傾斜	NE、5°	SW、5°
局所地形	平坦尾根	平坦尾根
林分状況	【高】主要種 ウダイカンバ 【高】植被率 40% 【高】樹高 21~29m 【高】DBH 28~57cm	ウダイカンバ 70% 18~26m 35~45cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	特になし	特になし
林床植生	林床で優占する植物種 クマイザサ 植被率 100% 植生高 1.3~2.3m	クマイザサ 100% 1.4~2.4m
保護林の状況	林床はササが密生するが、伐根上等に保護対象種の天然更新が見られる。	林床はササが密生し、保護対象種の天然更新は見られない。ウダイカンバ大径木の根返りあり。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
一:特になし		



ウダイカンバの実生

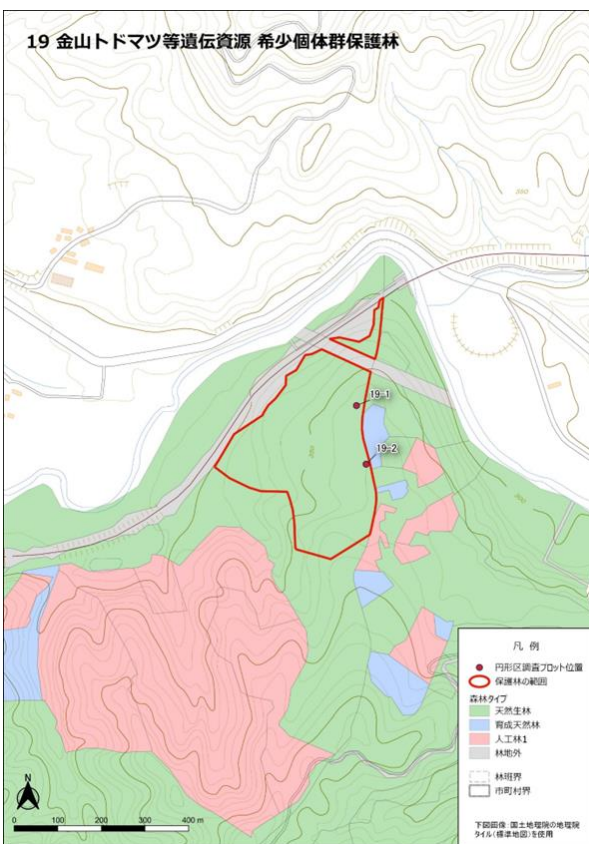
プロット1

プロット2

項目	プロット1		プロット2	
	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				
磁南方向				
磁西方向				
天頂				

確認された影響[特になし]

- ・プロット1は、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・プロット2では、ウダイカンバの根上がりが確認されたが、概ね健全であった。
- ・林床ではササが密生しているが、天然更新も確認された。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



プロットNo.	19-1	19-2
旧No.	K20-63-1	K20-63-2
調査日	2022/8/29	2022/8/29
標高	364m	378m
方位、傾斜	NW、6°	NE、3°
局所地形	平坦尾根	平坦尾根
林分状況	【高】主要種 トドマツ、シナノキ 【高】植被率 70% 【高】樹高 22~32m 【高】DBH 32~76cm	トドマツ、シナノキ 90% 22~31m 34~75cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ痕跡多数あり	エゾシカ食痕、糞、越冬跡あり
林床植生	林床で優占する植物種 クマイザサ 植被率 90% 植生高 0.4~1.8m	クマイザサ 80% 0.4~1.7m
保護林の状況	エゾシカの痕跡が多く見られるが、保護対象種への影響は少ない。アカエゾマツの天然更新は倒木上に、トドマツの天然更新は林床に多く見られる。	エゾシカの痕跡が多く見られるが、保護対象種への影響は少ない。プロット内にアカエゾマツの天然更新は見られないが、プロット外で少数見られる。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う



トドマツの高木

		プロット1		プロット2	
項目		H24	R4	H24	R4
磁北方向					
	北				
磁東方向					
	東				
磁南方向					
	南				
磁西方向					
	西				
天頂					

確認された影響[特になし]

- ・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態である。
- ・天然更新も多く確認された。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

プロット1

プロット2

プロット3



項目	プロット1			プロット2			プロット3		
	H24	R4(新規。地点は前回 GPS 地点)	H24	R4	H24	R4	H24	R4(新規。地点は前回 GPS 地点)	
磁北方向									
磁東方向									
磁南方向									
磁西方向									
天頂									

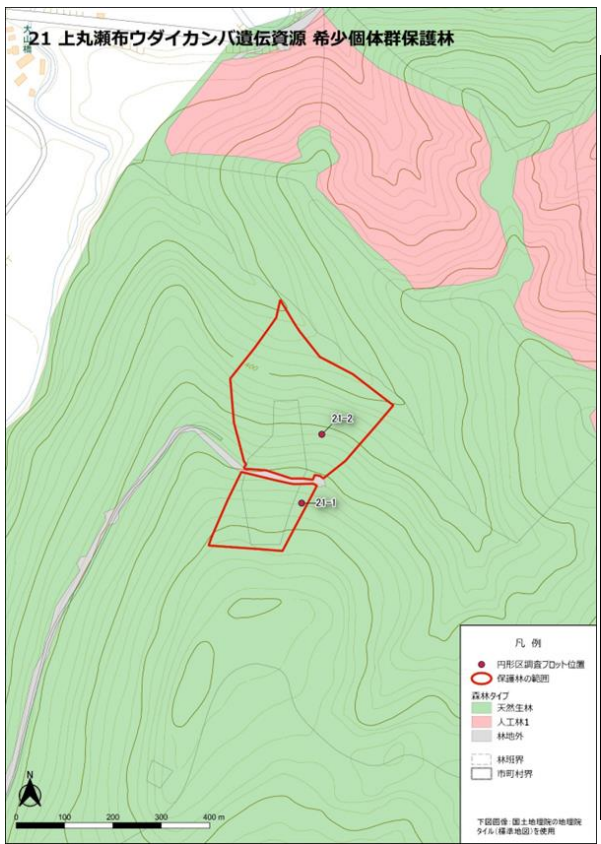
プロットNo.	20-1(新規)	20-2	20-3(新規)
旧No.	-	A2-77-2	-
調査日	2022/9/1	2022/9/1	2022/9/1
標高	11m	12m	8m
方位、傾斜	0°	0°	SW 3°
局所地形	平坦地	平坦地	平坦地
林分状況	【高】主要種 カシワ 【高】植被率 90% 【高】樹高 6~9m 【高】DBH 10~23cm	カシワ、エゾイタヤ 90% 16~24m 14cm	カシワ 80% 11~15m 22~43.5cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ食痕わずかにあり	エゾシカ食痕わずかにあり	風倒(軽微)、エゾシカ食痕わずかにあり
林床植生	林床で優占する植物種 クマイザサ 植被率 100% 植生高 0.1~1.7m	クマイザサ 90% 0.1~1.3m	クマイザサ 90% 0.1~1.5m
保護林の状況	前回GPS地点で調査跡が発見されず。GPS地点でプロットを新規設定。林床はササが密生しており、天然更新は見られない。カシワ立木の生育は健全である。	林床はクマイザサが密生するが、カシワの低木は見られ天然更新は行われている。	前回GPS地点で調査跡が発見されず。GPS地点でプロットを新規設定。古い風倒木が少数見られる。カシワは低木が見られ天然更新は行われている。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし			



カシワの高木

確認された影響[特になし]

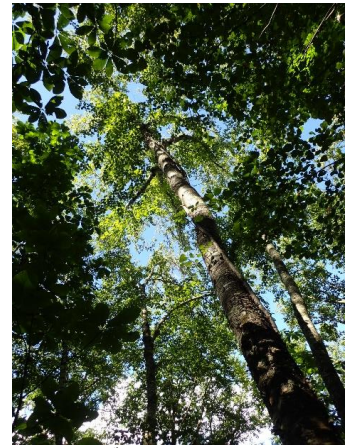
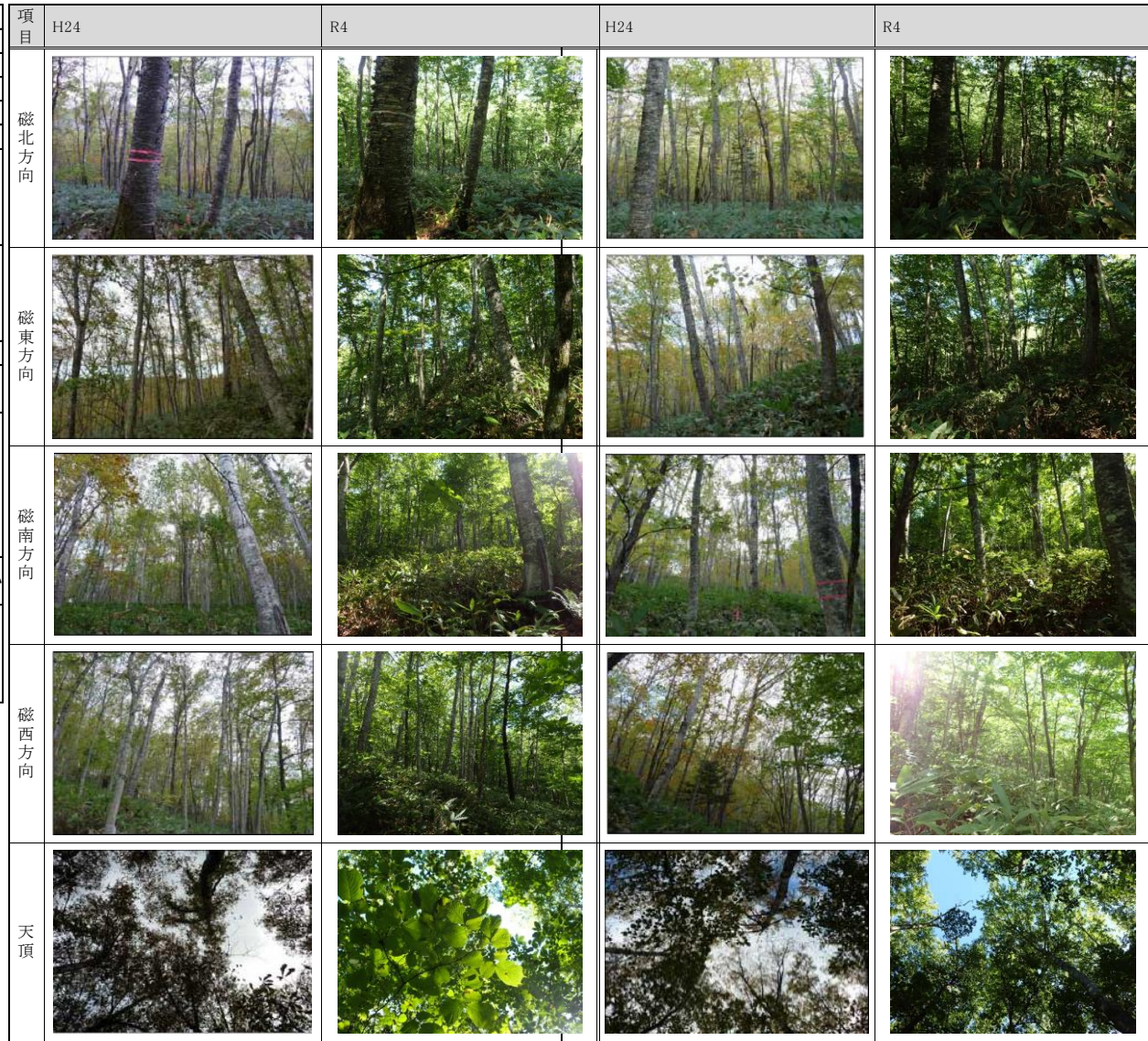
- ・全地点で、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は多数存在していると考えられる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



プロットNo.		21-1	21-2
旧No.		A1-76-1	A1-76-2
調査日		2022/8/24	2022/8/24
標高		518m	462m
方位、傾斜		N、24°	N、26°
局所地形		山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種	ウダイカンバ、ハリギリ	ウダイカンバ、ハリギリ
	【高】植被率	80%	80%
	【高】樹高	22~32m	17~30m
	【高】DBH	30~55cm	25~50cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント		風倒木およびエゾシカ食痕わずかにあり	エゾシカ剥皮あり
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	90%	80%
	植生高	0.1~1.3m	0.1~1.5m
保護林の状況		ウダイカンバが優占し、30mを超える個体も見られる。林床はササが密生しており天然更新は見られない。	林床はササが密生しており、天然更新は見られない。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロット1

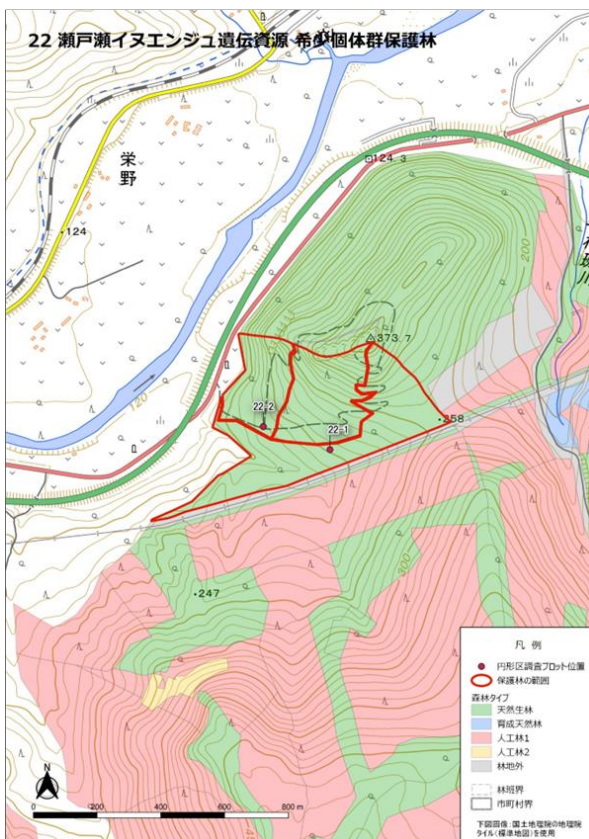
プロット2



ウダイカンバの高木

確認された影響[特になし]

- ・両プロットとも、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は多数存在していると考えられる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



プロットNo.	22-1	22-2
旧No.	A4-86-1	A4-86-2
調査日	2022/8/26	2022/8/26
プロット情報	標高 211m 方位、傾斜 SW、12° 局所地形 山腹平衡斜面	標高 186m 方位、傾斜 SW、13° 局所地形 山腹凸形斜面
林分状況	【高】主要種 ミズナラ 【高】植被率 90% 【高】樹高 16~25m 【高】DBH 16~82cm	【高】主要種 ミズナラ、シラカンバ 【高】植被率 90% 【高】樹高 12~27m 【高】DBH 22~52cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	風倒木、エゾシカ食痕わずかにあり	エゾシカ食痕(小)あり
林床植生	林床で優占する植物種 クマイザサ 植被率 50% 植生高 0.1~1.8m	クマイザサ 80% 0.1~1.4m
保護林の状況	保護対象種のイヌエンジュはプロット内に1個体のみ。エゾイタヤ、ミズナラ林への遷移が進行している。	被圧によるイヌエンジュの枯死が進行しており、天然更新は見られない。林分の状態は健全である。
林分等の状況	遷移の進行あり	遷移の進行あり
評価・課題等確認された影響	確認された影響[その他] ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	確認された影響[その他] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う

		プロット1		プロット2	
項目		H24	R4	H24	R4
磁北方向					
磁東方向					
磁南方向					
磁西方向					
天頂					

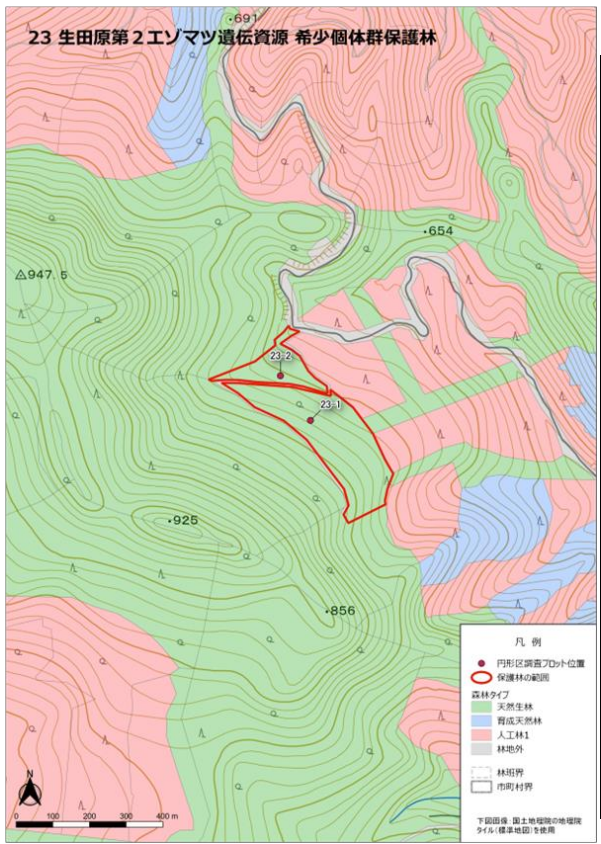
確認された影響[その他]

- ・プロット1、プロット2ともに遷移が進んでおり、ミズナラ、シラカンバが優占する林分となっている。
- ・林況に大きな変化はなく健全な状態といえる。
- ・今後も広葉樹林としての遷移がなされていく林分である。
- ・経過を観察しつつ、保護対象種について検討していく。



3-3.希少個体群保護林 (4/7)

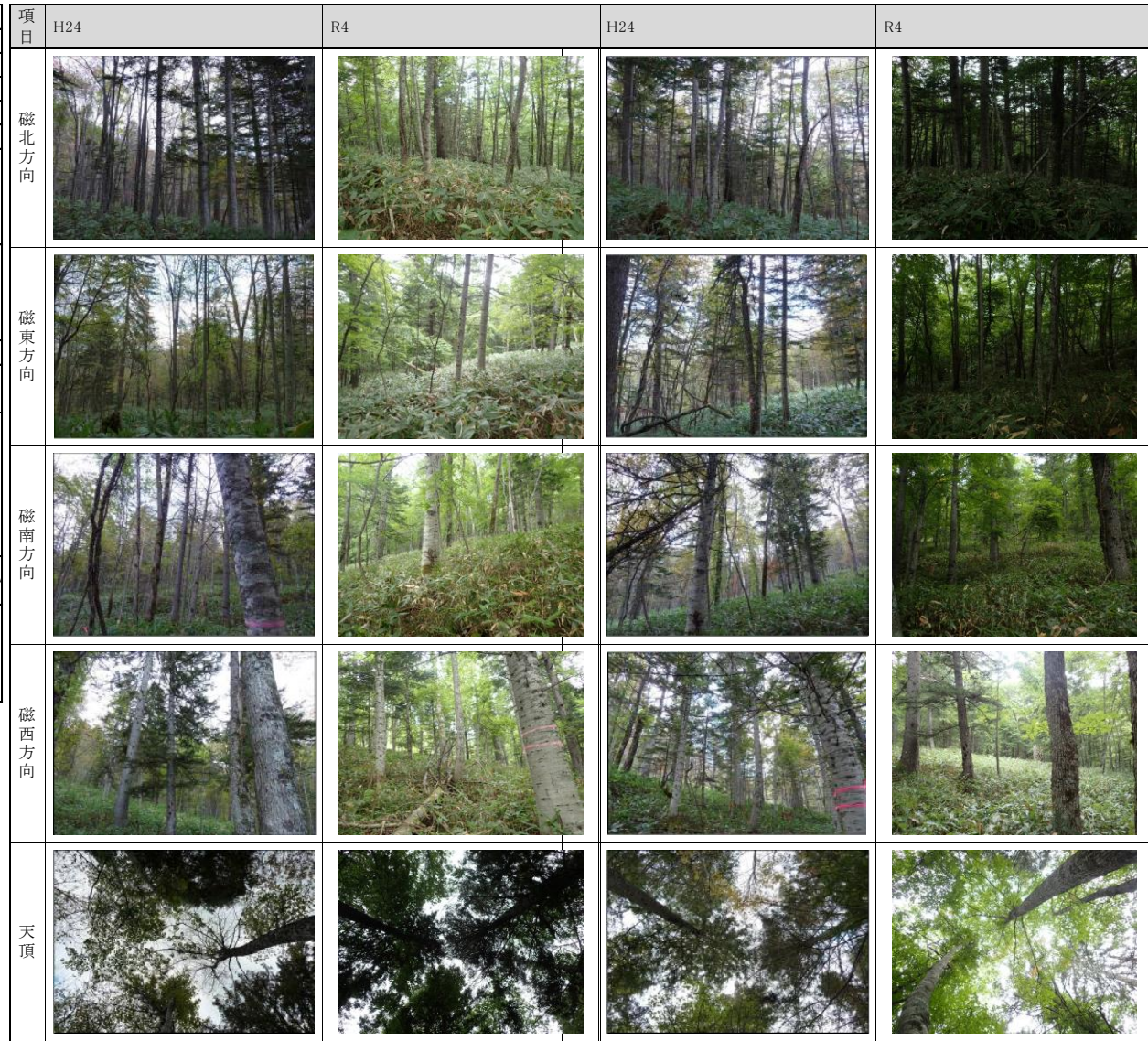
No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況	調査周期	評価・課題・対応(案)
23	31304	生田原第2エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林(9ha)	エゾマツ	H24	・森林概況調査(2箇所)	・プロット1、プロット2とも、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが密生しているが、天然更新も確認された。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
24	31305	武利アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林(16ha)	アカエゾマツ	H24	・森林概況調査(2箇所) ※ 不到達	・森林概況調査は、不到達のため実施していない。 ・航空写真で現時点の保護林を確認すると、大きな変化はないように見られた。	10年	確認された影響[不到達のため不明] ・どちらの林道も復旧の可能性は低く、今後のモニタリングは、航空写真の使用等を検討する。
25	31306	上丸瀬布シラカンバ遺伝資源希少個体群保護林(10ha)	シラカンバ	H24	・森林概況調査(2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、健全な状態といえるが、ミズナラ、エゾイタヤ等の落葉樹の生長が確認された。 ・それらを優占種とする落葉広葉樹林への遷移過程と考えられる。 ・林床にはササが生育しているが、比較的空いており、様々な落葉広葉樹の天然更新が確認された。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分であるといえるが、ややエゾシカの痕跡が多いため、留意が必要である。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
26	31401	滝西ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林(10ha)	ミズナラ、オオバボダイジュ、ベニイタヤ	H24	・森林概況調査(2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが密生している箇所も多いが、天然更新は多数確認された。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
27	31402	北雄トドマツ遺伝資源希少個体群保護林(6ha)	トドマツ	H24	・森林概況調査(2箇所)	・プロット1では、一部風倒が確認されたが軽微なものであり、健全な林分であった。 ・プロット2も健全ではあるが、シカの痕跡が見られた。 ・林床はササが薄いところもあり、天然更新も多数確認された。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。	10年	プロット1 確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。 プロット2 確認された影響[特になし] ・エゾシカの影響に留意が必要である。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
28	31902	螺湾コオノオレ遺伝資源希少個体群保護林(8ha)	コオノオレ	H24	・森林概況調査(2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、コオノオレの大径木はみられるが、個体数は少なく、天然更新はみられない。 ・林況に大きな変化はなく健全な状態といえ、今後はヤチガモ林等に推移していくと考えられる。 ・今後は広葉樹林としての遷移がなされていく林分である。	10年	確認された影響[その他] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。



プロットNo.		23-1	23-2
旧No.		A5-89-1	A5-89-2
調査日		2022/8/26	2022/8/26
標高		747m	724m
プロット情報	方位、傾斜	NE、16°	NE、8°
	局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
	林分状況	【高】主要種 エゾマツ、トドマツ 【高】植被率 80% 【高】樹高 16~28m 【高】DBH 22~81cm	エゾマツ、トドマツ 80% 16~32m 28~78cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント		風倒(軽微)、エゾシカ食痕(小)あり	風倒(軽微)、エゾシカ食痕(小)あり
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	80%	90%
	植生高	0.1~1.7m	0.1~1.4m
保護林の状況		高木層はエゾマツ、トドマツが優占するが、亜高木層以下には少ない。伐根上にエゾマツ実生が見られる。	高木層はエゾマツ、トドマツが優占するが、亜高木層以下には少ない。エゾマツ実生は少数見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

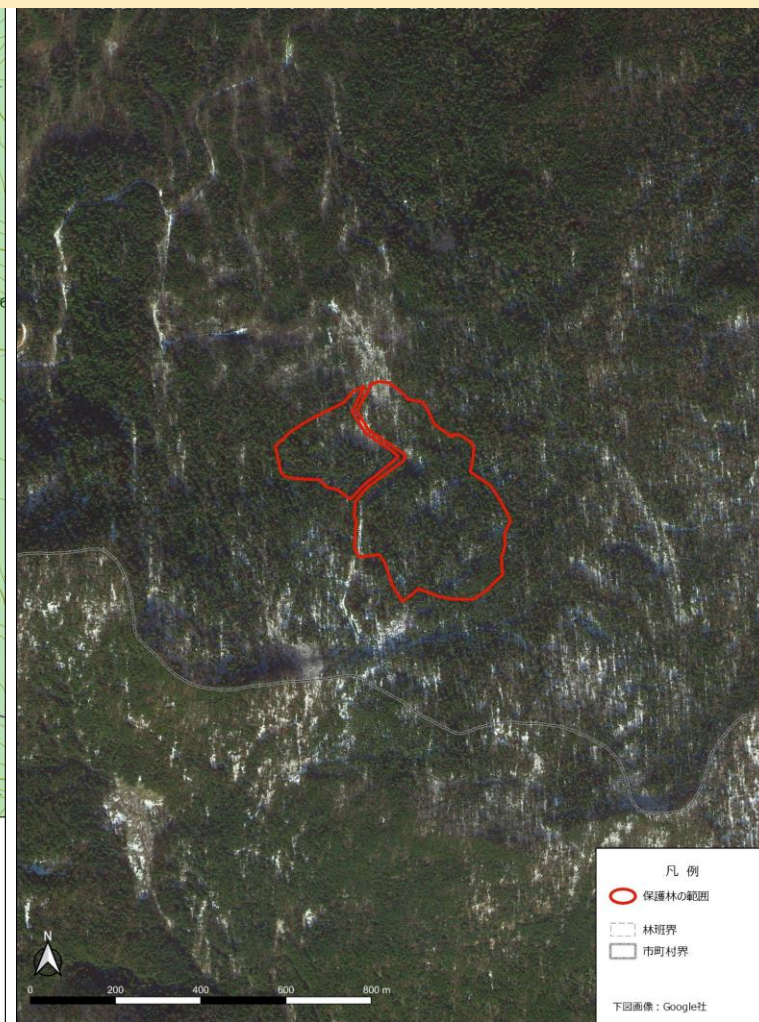
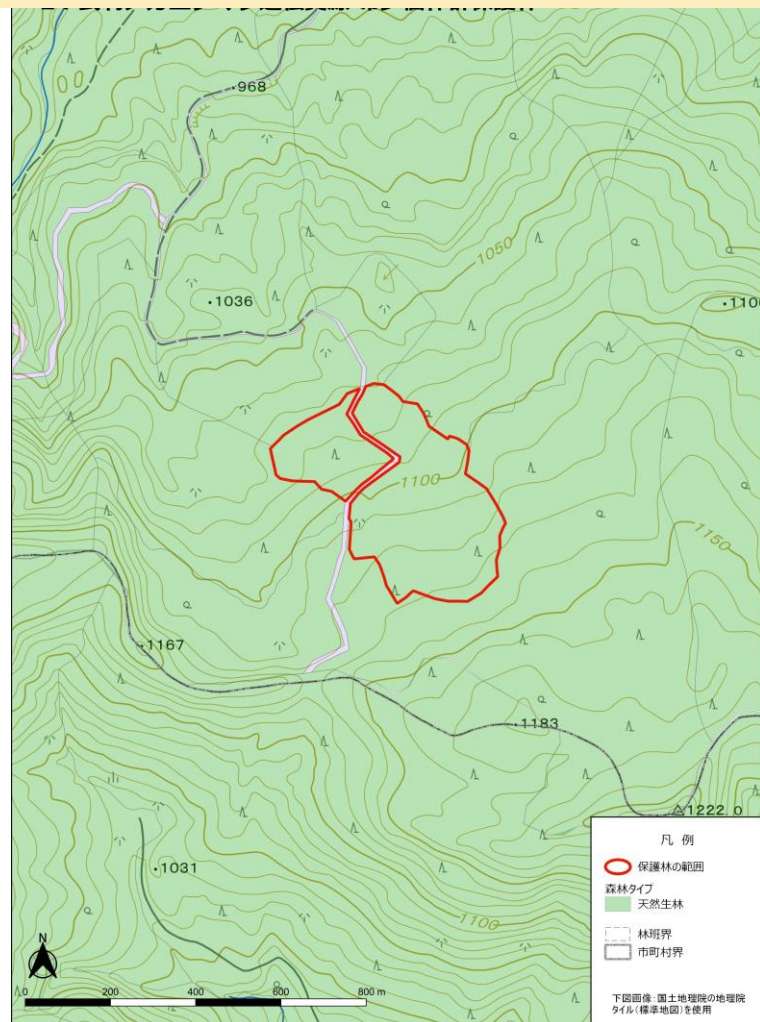
プロット1

プロット2



エゾマツの高木

確認された影響[特になし]
 ・プロット1、プロット2とも、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
 ・林床ではササが密生しているが、天然更新も確認された。
 ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

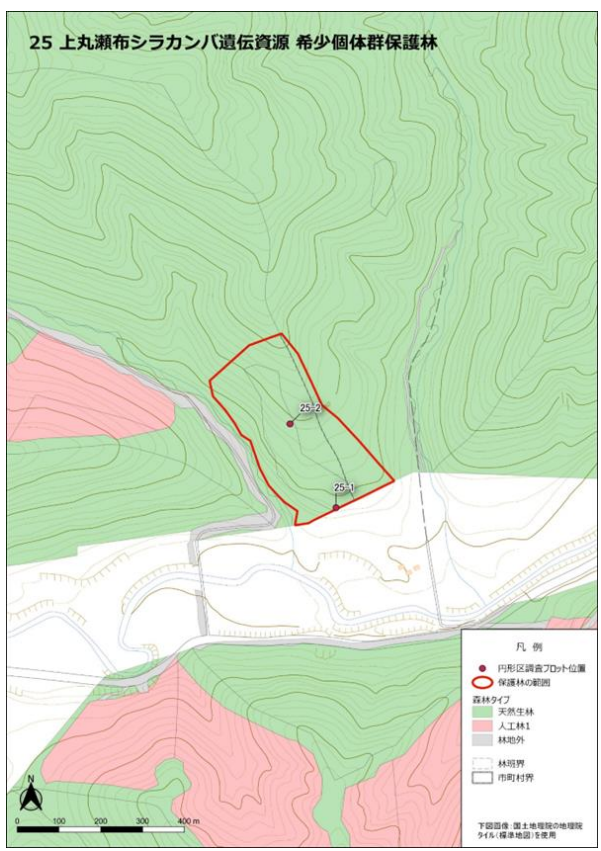


留辺蘂側からのアプローチ
林道崩壊箇所



丸瀬布側からのアプローチ
林道崩壊箇所

確認された影響[不到達のため不明]
 ・到達ルートである留辺蘂側の林道及び丸瀬布側からの林道の崩壊しており、同林道を徒歩で到達する手段は、日帰りでは不可能と判断した。
 ・航空写真で現時点の保護林を確認すると、大きな変化はないように見られた。
 ・どちらの林道も復旧の可能性は低く、今後のモニタリングは、航空写真などを検討することが望ましいかもしれない。

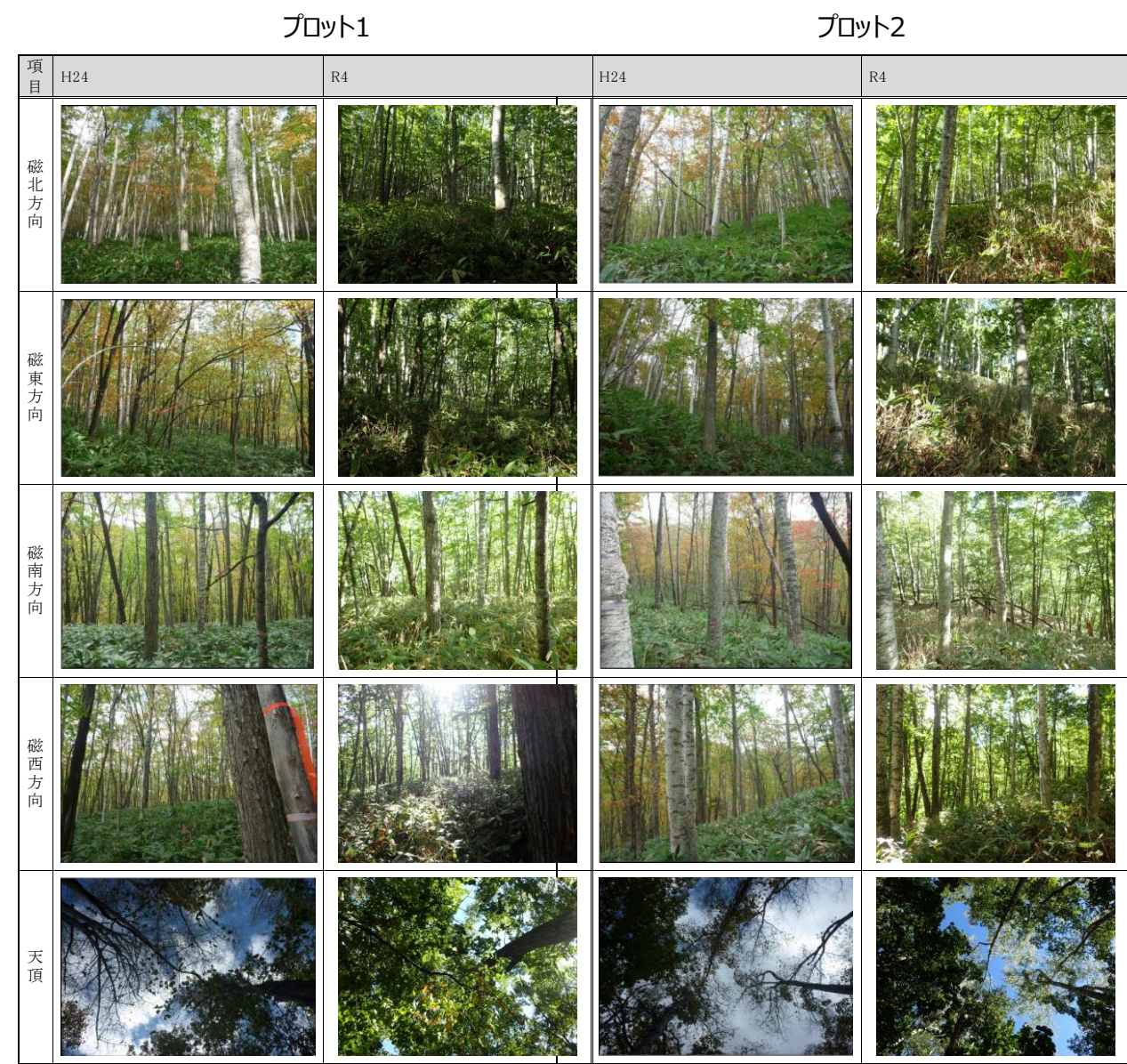


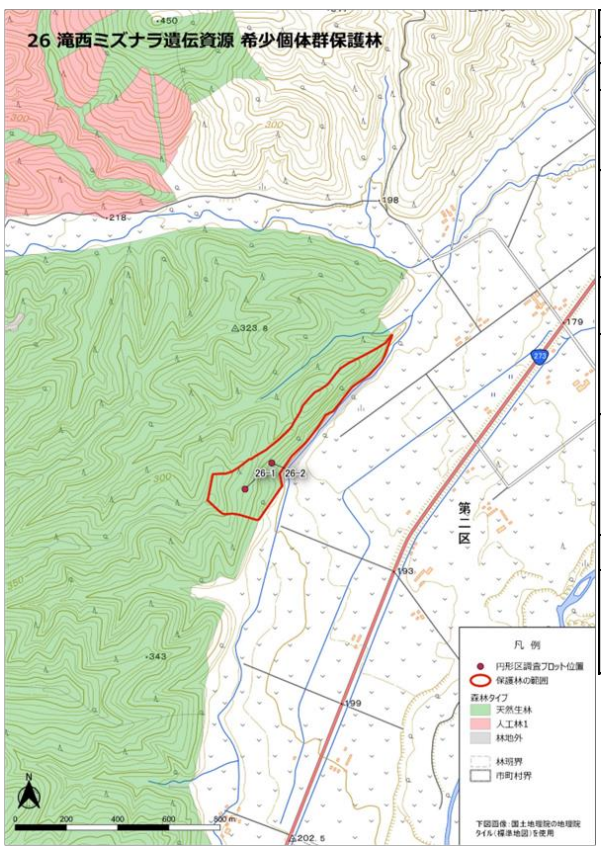
プロットNo.	25-1	25-2
旧No.	A06-100-1	A06-100-2
調査日	2022/8/24	2022/8/24
標高	289m	336m
方位、傾斜	S、13°	SW、22°
局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種 シラカンバ、ミズナラ 【高】植被率 90% 【高】樹高 16~26m 【高】DBH 18~55cm	シラカンバ、ミズナラ 80% 16~29m 25~50cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	風倒(軽微)、エゾシカ痕跡多数あり	風倒(軽微)、エゾシカ痕跡多数あり
林床植生	林床で優占する植物種 クマイザサ 植被率 90% 植生高 0.1~1.4m	クマイザサ 60% 0.1~1.6m
保護林の状況	エゾシカの痕跡が多く見られるが、シラカンバへの影響は少ない。シラカンバの天然更新は見られない。遷移過程の落葉広葉樹林である。	エゾシカの痕跡が多く見られるが、シラカンバへの影響は少ない。シラカンバの低木の天然更新が見られる。遷移過程の落葉広葉樹林である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う



確認された影響[特になし]

- ・プロット1、プロット2ともに、健全な状態といえるが、ミズナラ、エゾイタヤ等の落葉樹の生長が確認された。
- ・それらを優占種とする落葉広葉樹林への遷移過程と考えられる。
- ・林床にはササが生育しているが、比較的空いており、様々な落葉広葉樹の天然更新が確認された。
- ・ややエゾシカの痕跡が多いため、留意が必要である。
- ・経過を観察しつつ、保護対象種について検討していく。

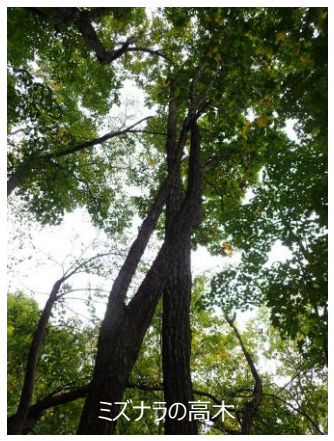




プロットNo.	26-1	26-2	
旧No.	A9-79-1	A9-79-2	
調査日	2022/9/28	2022/9/28	
プロット情報	標高	271m	250m
	方位、傾斜	SE、17°	SW、32°
	局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種	オオバボダイジュ	アカイタヤ、オオバボダイジュ
	【高】植被率	70%	90%
	【高】樹高	18~28m	14~25m
	【高】DBH	18~79cm	16~48cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	風倒(軽微)、エゾシカ食痕わずかにあり	エゾシカ痕跡多数あり	
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	100%	80%
	植生高	0.1~1.6m	0.1~1.1m
保護林の状況	保護対象種の生育は健全であり、天然更新も見られる。	保護対象種の生育は健全であり、天然更新も見られる。エゾシカ痕跡が多く見られるが、保護対象種への影響は軽微。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	



イタヤカエデの実生

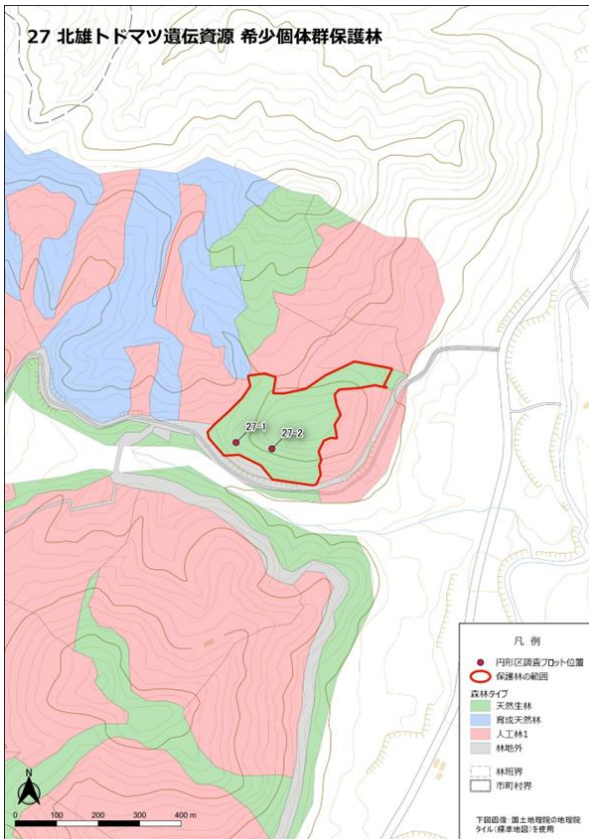


ミズナラの高木

		プロット1		プロット2	
		H24	R4	H24	R4
項目	磁北方向				
	磁東方向				
項目	磁南方向				
	磁西方向				
項目	天頂				

確認された影響[特になし]

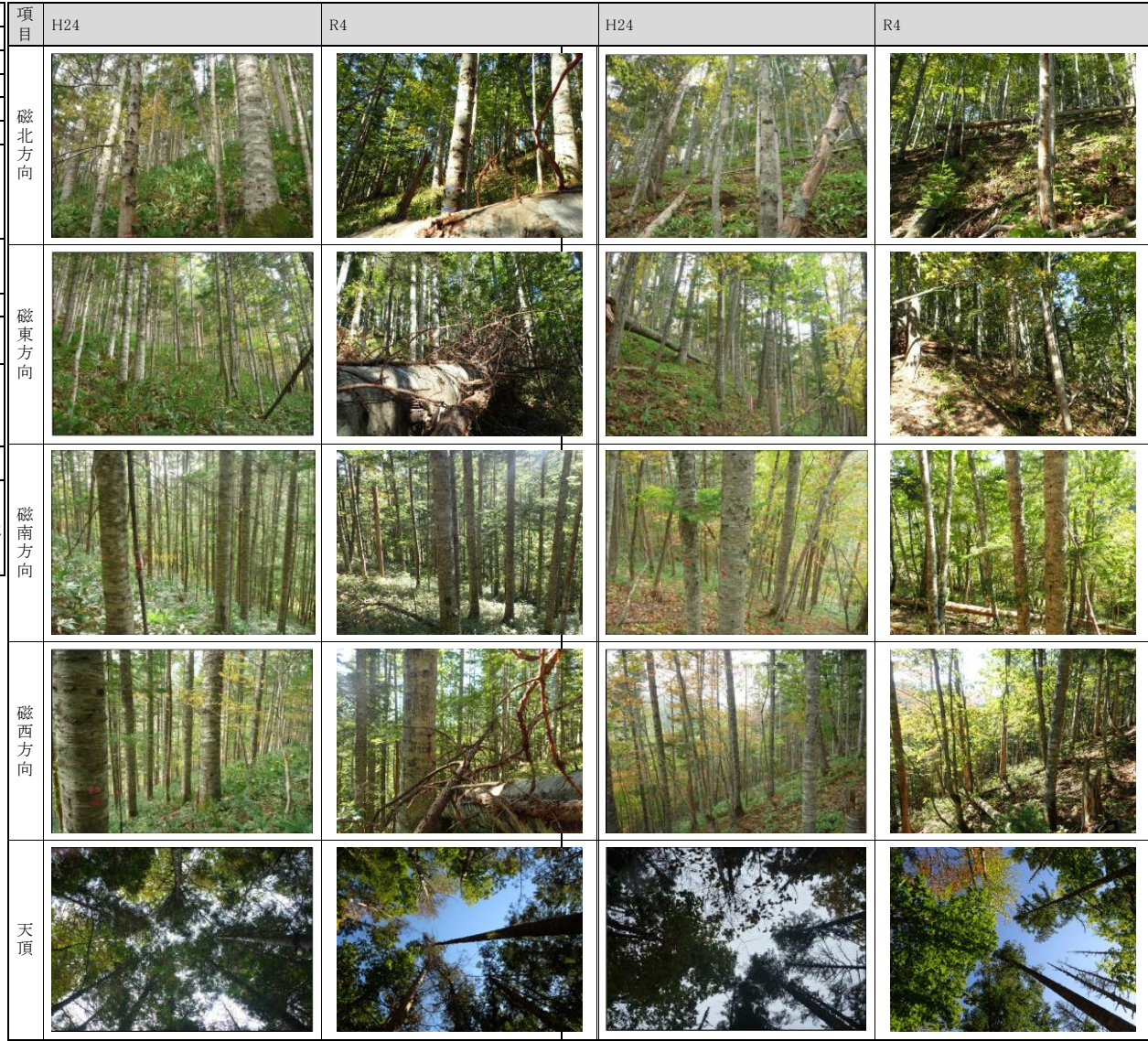
- ・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・林床ではササが密生している箇所も多いが、天然更新は多数確認された。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



プロットNo.	27-1	27-2
旧No.	A8-75-1	A8-75-2
調査日	2022/9/27	2022/9/27
プロット情報	標高	241m
	方位、傾斜	SW、28°
	局所地形	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種	トドマツ
	【高】植被率	80%
	【高】樹高	22~28m
	【高】DBH	20~48cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	風倒(軽微)、エゾシカ痕跡少数あり	風倒(小)、エゾシカ痕跡多数あり
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ
	植被率	80%
	植生高	0.1~1.0m
保護林の状況	トドマツの生育は健全である。実生も多数見られ、天然更新は順調に行われている。	トドマツの立ち枯れおよびエゾシカの食痕が散見されるが、天然更新は旺盛に行われている。
林分等の状況	大きな変化は認められない	野生動物の影響あり
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロット1

プロット2

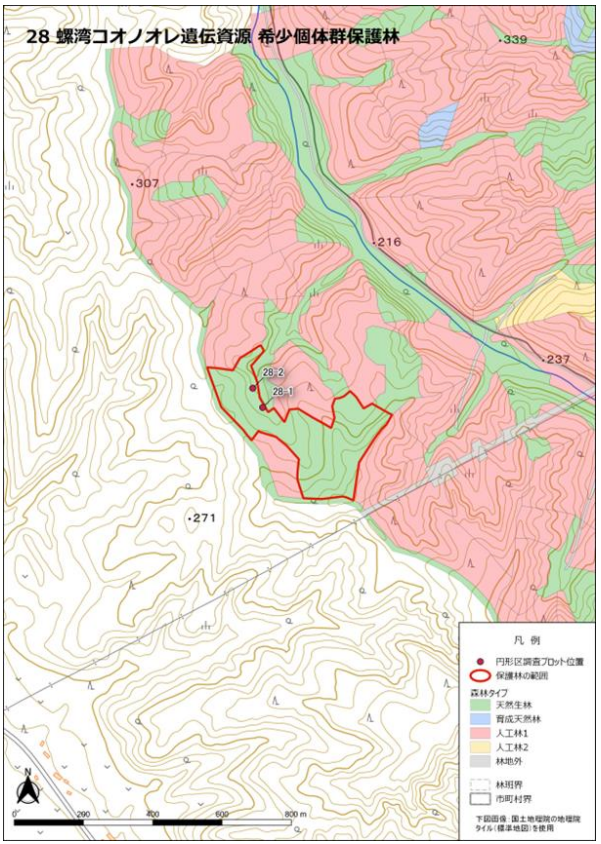


確認された影響[特になし]

- ・プロット1では、一部風倒が確認されたが軽微なものであり、健全な林分であった。
- ・プロット2も健全ではあるが、シカの痕跡が多かった。
- ・林床はササが薄いところもあり、天然更新も多数確認された。
- ・エゾシカの痕跡が多いため、留意が必要である。



トドマツの高木



保護林名	螺湾コオノレ遺伝資源希少個体群保護林	
保護対象種	コオノレ(ヤエガワカンバ)	
プロットNo.	28-1	28-2
旧No.	T5-131-1	T5-131-2
調査日	2022/10/5	2022/10/5
プロット情報	標高	261m
	方位、傾斜	NW、6°
	局所地形	山腹凹斜面
林分状況	【高】主要種	ヤチダモ、ミズナラ
	【高】植被率	70%
	【高】樹高	17~24m
	【高】DBH	16~62cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	風倒(軽微)、エゾシカ角研痕複数あり	エゾシカ痕跡多数あり
	林床で優占する植物種	ミヤコザサ、フッキソウ
林床植生	植被率	90%
	植生高	0.1~0.4m
保護林の状況	保護対象種のコオノレは、倒伏、枯死している。今後はヤチダモ林に遷移していくことが予想される。	保護対象種のコオノレは、老齢木が多く、やや衰弱している。今後はヤチダモ林に遷移していくことが予想される。
	林分等の状況	保護対象種の生育不調
評価・課題等確認された影響	確認された影響[力]	確認された影響[力]
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

確認された影響[その他]

- ・プロット1、プロット2ともに、コオノレの大径木はみられるが、個体数は少なく、天然更新はみられない。
- ・林況に大きな変化はなく健全な状態といえ、今後はヤチダモ林等に推移していくと考えられる。
- ・経過を観察しつつ、保護対象種について検討していく。



コオノレの高木 コオノレの枯損木

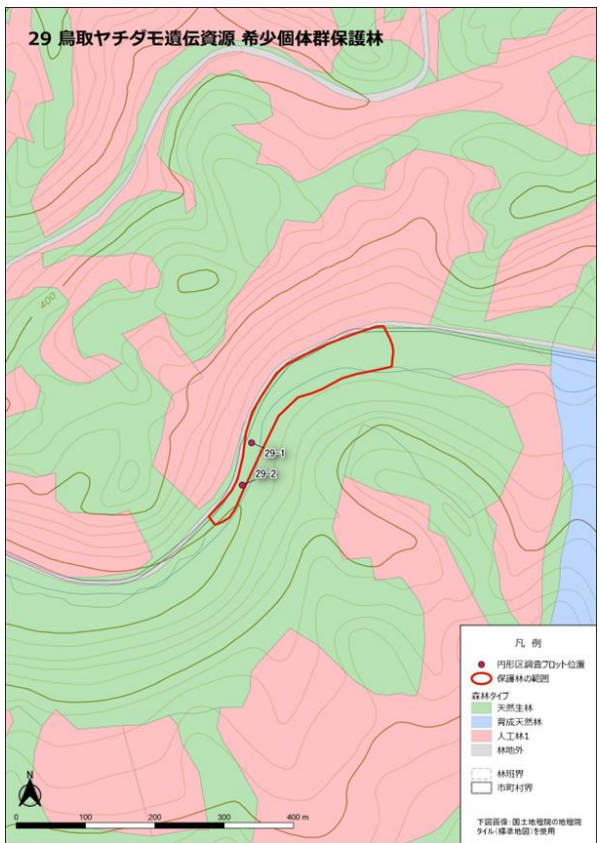


ヤチダモの発生



3-3.希少個体群保護林 (5/7)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況	調査周期	評価・課題・対応(案)
29	31903	鳥取ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林 (1ha)	ヤチダモ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに健全な林分であるが、天然更新はやや少ない。 ・シカの食害もやや確認された。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。	10年	確認された影響[野生鳥獣] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
30	31904	本別モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林 (5ha)	モンゴリナラ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが密生しているが、やや隙間もあり天然更新も確認された。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分であるといえるが、エゾシカの痕跡が多く注意が必要と考えられた。	10年	確認された影響[野生鳥獣] ・エゾシカの影響に留意が必要である。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
31	31905	本別アサダ遺伝資源希少個体群保護林 (21ha)	アサダ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・保護対象種はわずかにみられる程度で、林床ではエゾシカの食害が多数確認された。	10年	確認された影響[野生鳥獣] ・エゾシカの影響に留意が必要である。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
32	31906	芽登ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林 (9ha)	ミズナラ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえるが、天然更新は見られなかった。 ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は存在していると考えられる。 ・概ね健全な、更新も期待出来る林分である。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
33	31907	陸別イヌエンジュ遺伝資源希少個体群保護林 (5ha)	イヌエンジュ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1はやや遷移が進んでいるが健全な状況、プロット2は林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・天然更新も (少ない箇所もあるが) 確認された。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。



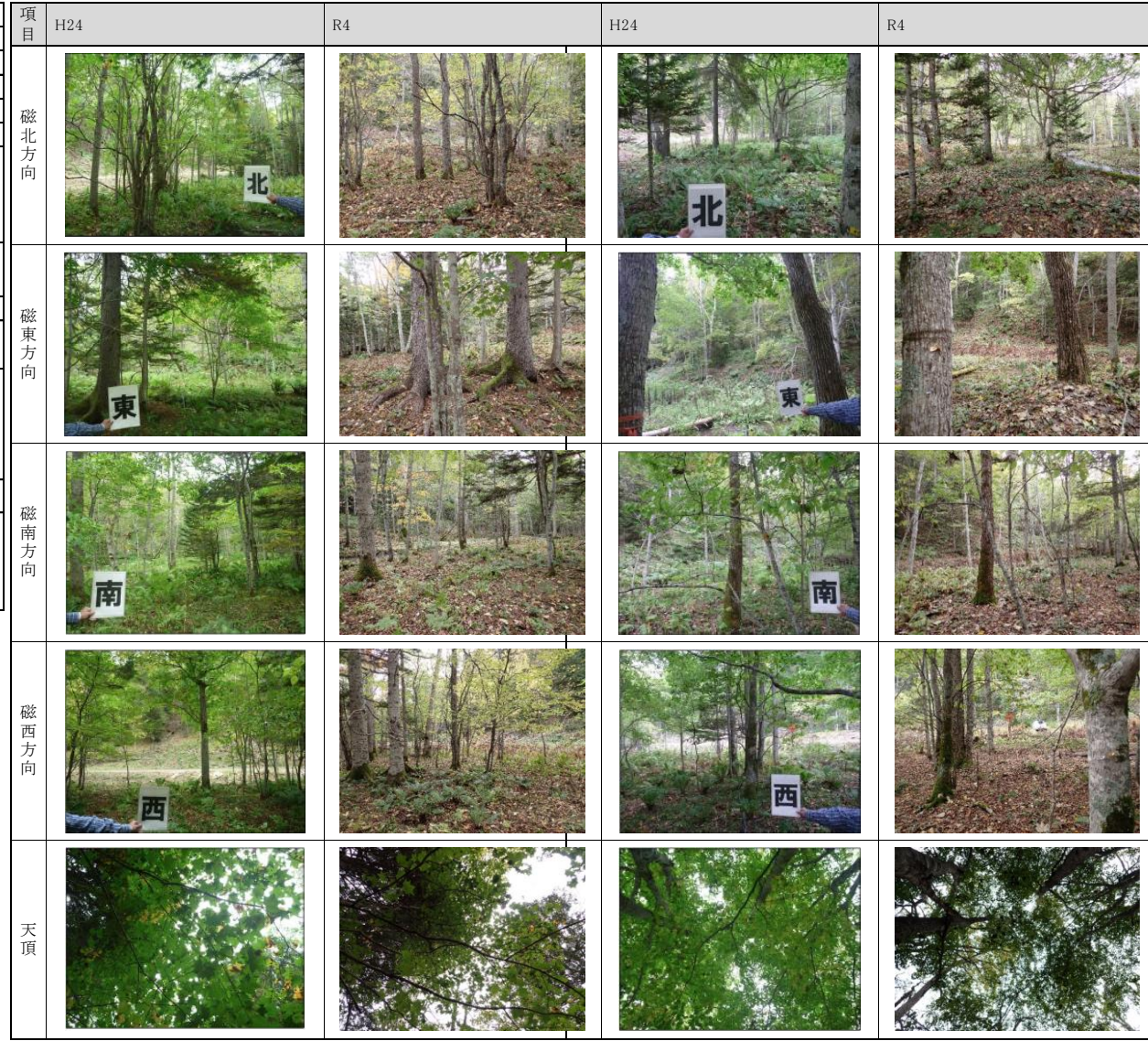
プロットNo.	29-1	29-2
旧No.	T4-130-1	T4-130-2
調査日	2022/10/5	2022/10/5
標高	362m	371m
方位、傾斜	S、3°	SW、3°
局所地形	沖積堆積地	沖積堆積地
林分状況	【高】主要種 ヤチダモ、トドマツ、エゾマツ 【高】植被率 50% 【高】樹高 20~33m 【高】DBH 20~75cm	ヤチダモ 60% 20~31m 20~52cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ痕跡多数あり	エゾシカ痕跡多数あり
林床植生	林床で優占する植物種 オシダ、スゲ属の一種 植被率 80% 植生高 0.1~0.4m	フッキソウ、オシダ 70% 0.1~0.4m
保護林の状況	ヤチダモは大径木が見られるが、低木層以下には見られず天然更新もない。エゾシカによるオシダの食痕多数。	ヤチダモ実生はわずかに見られる。エゾシカによるオシダの食痕多数。
林分等の状況	エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり
評価・課題等確認された影響	確認された影響【ア】 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	確認された影響【ア】 引き続きモニタリングによる経過観察を行う

確認された影響[野生鳥獣]

- ・プロット1、プロット2ともに健全な林分であるが、天然更新はやや少ない。
- ・シカの食害もやや確認された。
- ・概ね健全な、更新も期待出来る林分であるといえる。
- ・エゾシカの痕跡が多いため、留意が必要である。

プロット1

プロット2



ヤチダモの高木



エゾシカの食痕



プロットNo.	30-1	30-2
旧No.	T2-128-1	T2-128-2
調査日	2022/10/4	2022/10/4
プロット情報	標高	137m
	方位、傾斜	W、33°
林分状況	局所地形	山腹凹形斜面
	【高】主要種	ミズナラ
林床植生	【高】植被率	80%
	【高】樹高	14~20m
	【高】DBH	16~58cm
	攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ痕跡多数あり
保護林の状況	林床で優占する植物種	ミヤコザサ
	植被率	80%
	植生高	0.1~0.6m
林分等の状況	保護対象種の生育は健全であり、果実や実生も多く見られるが、エゾシカによる影響に注視が必要である。	保護対象種の生育は健全であり、果実や実生も多く見られるが、エゾシカによる影響に注視が必要である。
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[ア]
評価・課題等確認された影響	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	

確認された影響[野生鳥獣]

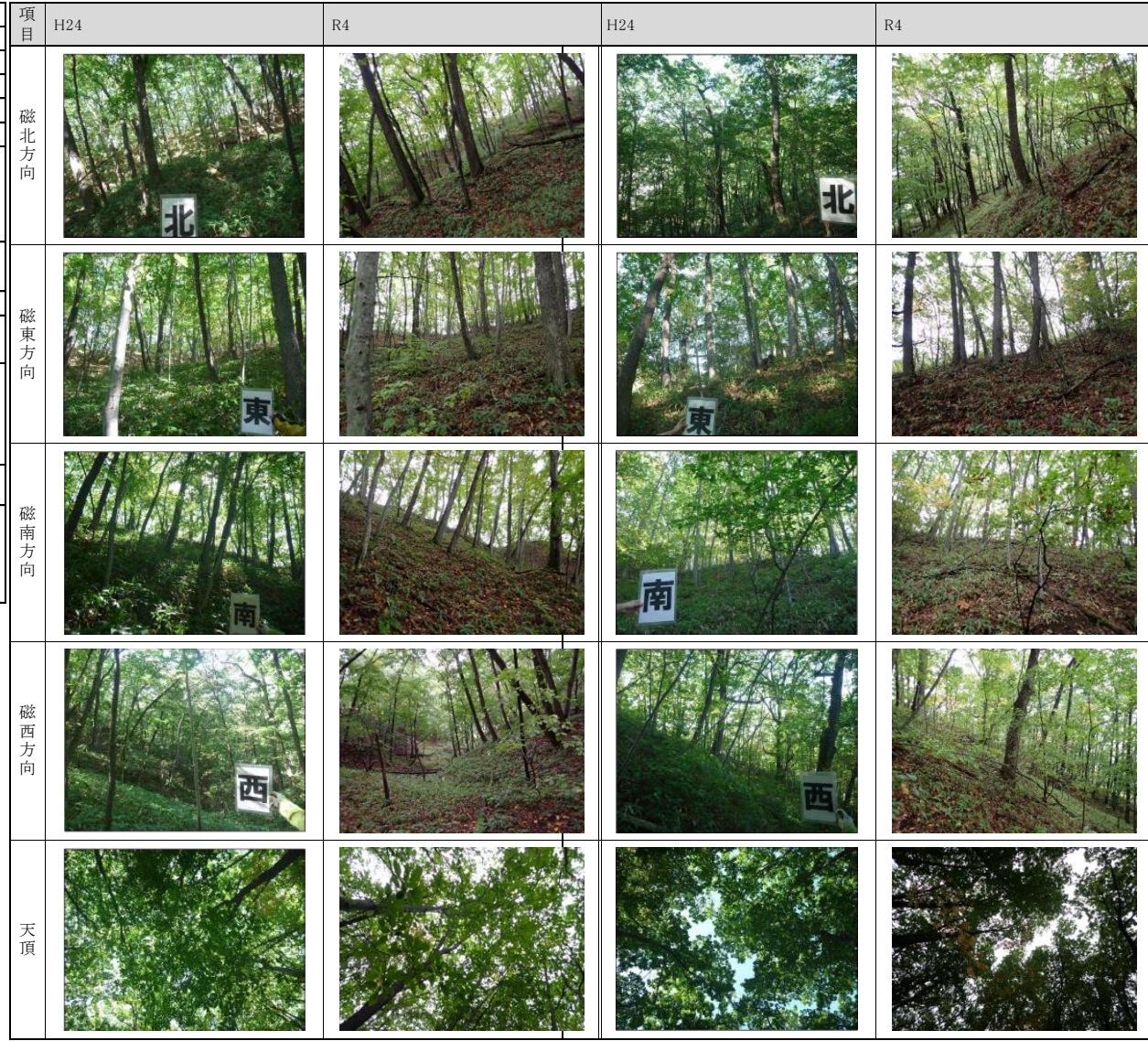
- ・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・林床ではササが密生しているが、やや隙間もあり、天然更新も確認された。
- ・エゾシカの痕跡が多いため、留意が必要である。

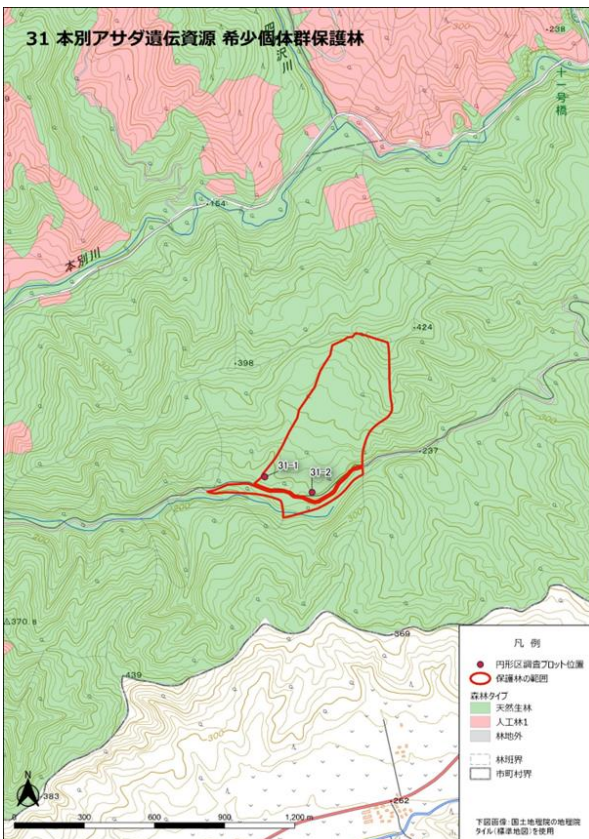


ミズナラのドングリ

プロット1

プロット2

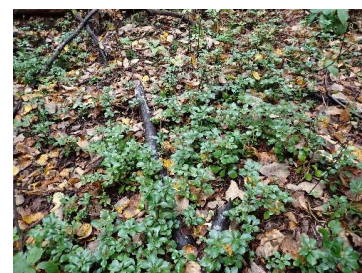




プロットNo.	31-1	31-2
旧No.	T3-129-1	T3-129-2
調査日	2022/10/4	2022/10/4
プロット情報	標高 252m 方位、傾斜 SW、18° 局所地形 山腹凹形斜面	標高 255m 方位、傾斜 SW、15° 局所地形 山腹凹形斜面
林分状況	【高】主要種 オオバポダイジュ 【高】植被率 70% 【高】樹高 21~30m 【高】DBH 25~70cm	トドマツ、オヒョウ、アサダ 80% 17~26m 25~86cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ角研ぎ痕、下層植生食害あり	風倒(軽微)、エゾシカ痕跡多数あり
林床植生	林床で優占する植物種 フッキソウ 植被率 70% 植生高 0.1~0.3m	フッキソウ 60% 0.1~0.3m
保護林の状況	保護対象種のアサダは全く見られない。エゾシカによる下層植生の食害が多く、フッキソウ以外の種がほとんど見られない。	保護対象種のアサダは散見されるが、天然更新は見られない。エゾシカによる下層植生の食害が多く、フッキソウ以外の種がほとんど見られない。
林分等の状況	エゾシカの影響あり	エゾシカの影響あり
評価・課題等確認された影響	確認された影響[A] ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	確認された影響[A] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う



エゾシカの角こすり



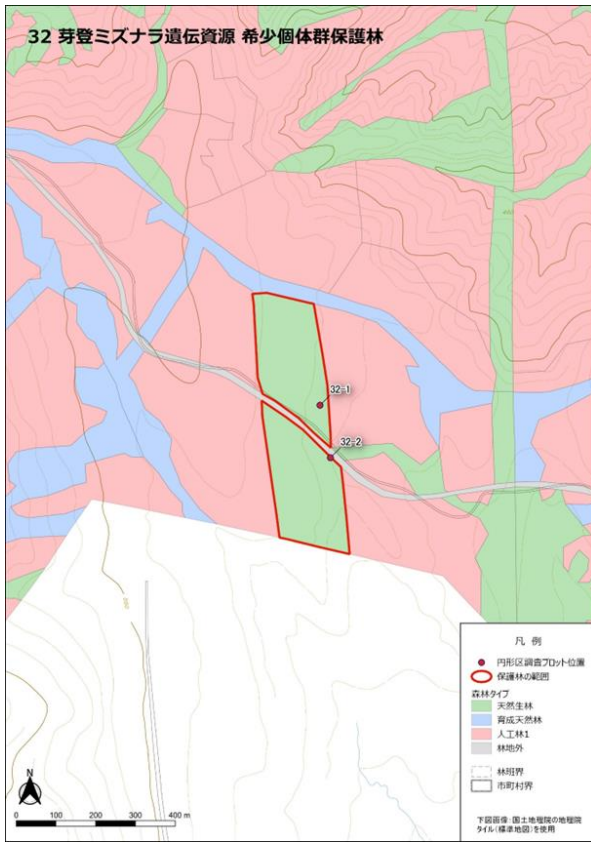
林床にはフッキソウ程度しかみられない

プロット1

プロット2

項目	プロット1		プロット2	
	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				
磁南方向				
磁西方向				
天頂				

確認された影響[野生鳥獣]
 ・保護対象種はわずかにみられる程度で、林床ではエゾシカの食害が多数確認された。
 ・エゾシカの痕跡が多いため、留意が必要である。



プロットNo.	32-1	32-2
旧No.	T1-127-1	T1-127-2
調査日	2022/8/10	2022/8/10
プロット情報	標高	541m
	方位、傾斜	NE、5°
	局所地形	台地
林分状況	【高】主要種	ミズナラ
	【高】植被率	70%
	【高】樹高	22~28m
	【高】DBH	20~120cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	風倒(小)、エゾシカ痕跡少数あり	エゾシカ食痕わずかにあり
林床植生	林床で優占する植物種	ミヤコザサ
	植被率	90%
	植生高	0.1~1.0m
保護林の状況	ミズナラ立木の生育は健全であるが、天然更新は見られない。	ミズナラ立木の生育は健全であるが、天然更新は見られない。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ク:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う



確認された影響[特になし]

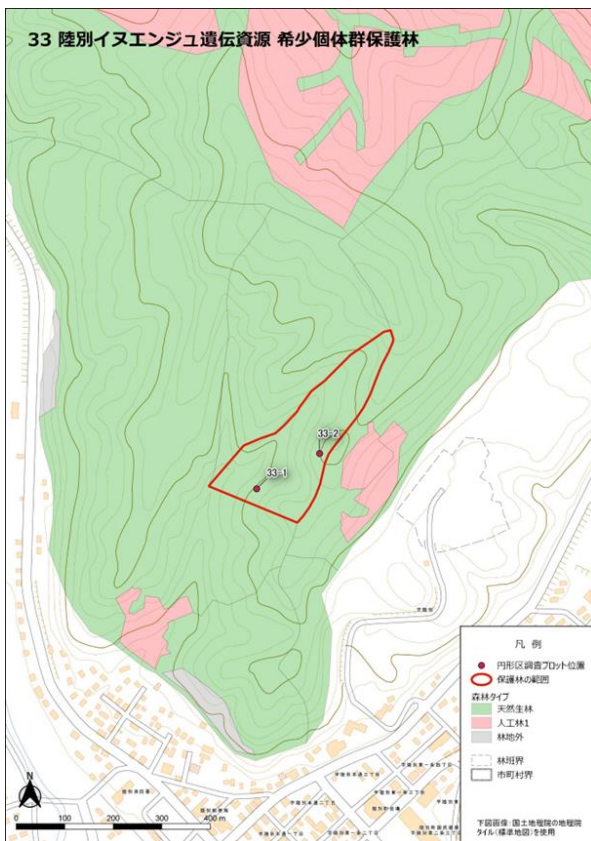
- ・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえるが、天然更新は見られなかった。
- ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は多数存在していると考えられる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



ミズナラの高木



林床



プロットNo.		33-1	33-2
旧No.		T7-133-1	T7-133-2
調査日		2022/10/5	2022/10/5
プロット情報	標高	317m	357m
	方位、傾斜	W、18°	W、23°
	局所地形	山腹凹斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種	ケヤマハンノキ、オオバボダイジュ	ミズナラ、オオバボダイジュ
	【高】植被率	70%	80%
	【高】樹高	16~23m	15~23m
	【高】DBH	15~52cm	16~82cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント		風倒(軽微)、エゾシカ痕跡複数あり	エゾシカ食痕、角研ぎ跡あり
林床植生	林床で優占する植物種	ミヤコザサ、オシダ	ミヤコザサ、スゲ属の一種
	植被率	90%	90%
	植生高	0.1~0.7m	0.1~0.3m
保護林の状況		イヌエンジュの個体数は少なく枯れが目立つ。更新木も見られない。	イヌエンジュは少なく、更新木は見られない。その他の樹木の生育は健全である。
林分等の状況		遷移の進行あり	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロット1

プロット2

項目	プロット1		プロット2	
	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				
磁南方向				
磁西方向				
天頂				

確認された影響[特になし]

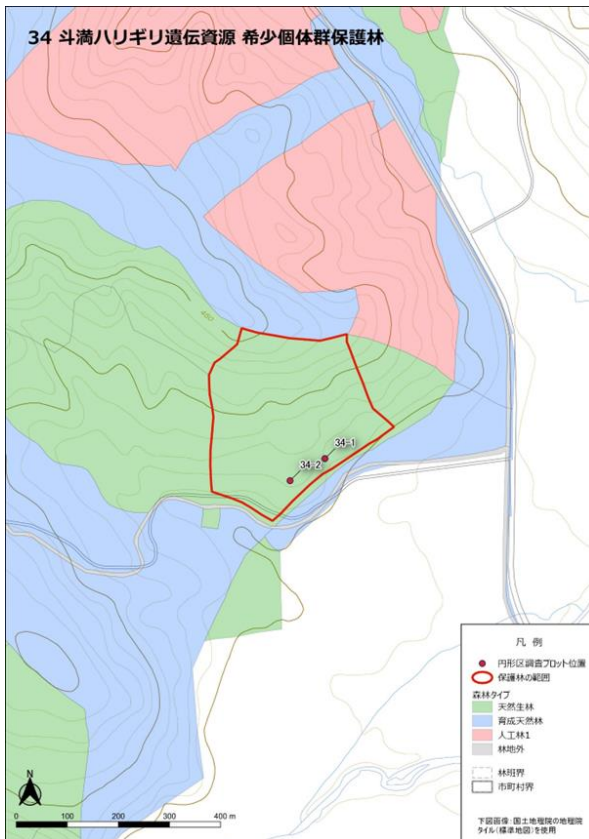
- ・プロット1はやや遷移が進んでいるが健全な状況、プロット2は林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・天然更新も(少ない箇所もあるが)確認された。
- ・概ね健全な、更新も期待出来る林分であるといえる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



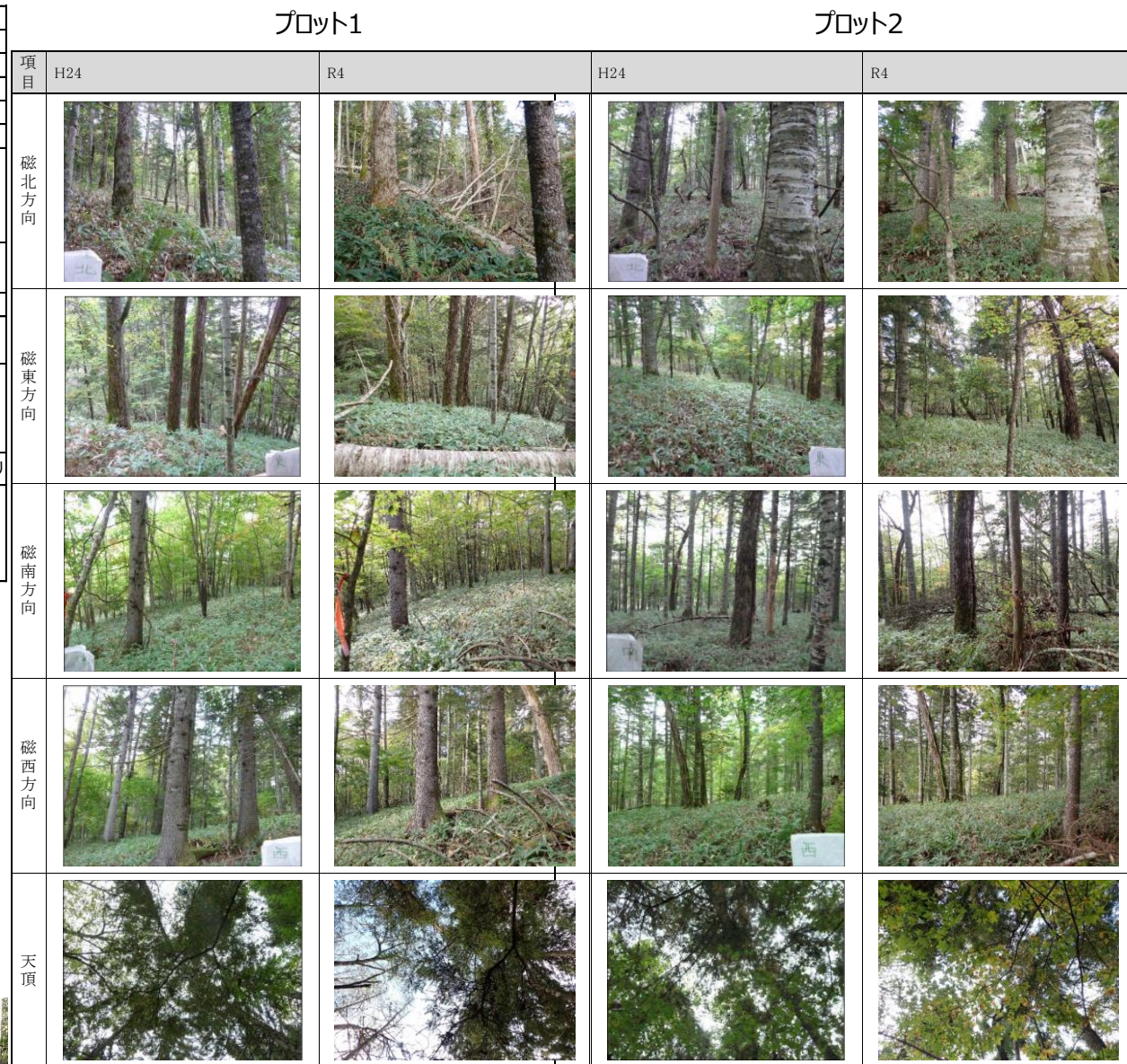
イヌエンジュの高木

3-3.希少個体群保護林 (6/7)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況	調査周期	評価・課題・対応(案)
34	31908	斗満ハリギリ遺伝資源希少個体群保護林 (9ha)	ハリギリ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに老齢林であり、ハリギリの大木はみられるが、天然更新は少ない。 ・風倒木が散見される。	10年	プロット1 確認された影響[自然撈乱] ・老齢林の遷移に留意が必要である。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。 プロット2 確認された影響[野生鳥獣、自然撈乱] ・エゾシカの影響に留意が必要である。 ・老齢林の遷移に留意が必要である。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
35	32001	広尾ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林 (4ha)	ダケカンバ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1は、約半分の面積に撈乱。 ・残された半分の林況に大きな変化はなかった。 ・裸地となった箇所には、多数の実生が確認された。 ・プロット2は、林況は健全であるが遷移が進んでおり、ミズナラ、カエデ類等の生長が確認された。 ・林床では、広葉樹の更新が少数ではあるが確認された。	10年	プロット1 確認された影響[その他] ・林分の今後の回復に留意する。 プロット2 確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
36	32002	広尾ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林 (6ha)	ミズナラ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが密生しているが、天然更新も確認された。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
37	32003	広尾トドマツ遺伝資源希少個体群保護林 (5ha)	トドマツ	H24	・森林概況調査 (3箇所)	・プロット1、プロット2では、林況に大きな変化はなく天然更新もみられ健全な状態といえたが、エゾシカの痕跡が多く今後留意が必要である。 ・プロット3では、大規模な風倒被害が確認された。林床が明るくなったため、天然更新は旺盛であった。	10年	プロット1、プロット2 確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。 プロット3 確認された影響[自然撈乱] ・大規模な風害があるが、天然更新は旺盛である。引き続きモニタリングによる経過観察を行う。



プロットNo.	34-1	34-2	
旧No.	T06-132-1	T06-132-2	
調査日	2022/10/6	2022/10/6	
プロット情報	標高	384m	393m
	方位、傾斜	SE、25°	S、10°
	局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種	シナノキ、エゾマツ、トドマツ	トドマツ、エゾマツ
	【高】植被率	60%	70%
	【高】樹高	20~31m	24~32m
	【高】DBH	20~79cm	25~68cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	中程度の風倒、エゾシカ痕跡複数あり	少数の風倒、エゾシカ痕跡複数あり	
林床植生	林床で優占する植物種	ミヤコザサ	ミヤコザサ
	植被率	90%	90%
	植生高	0.1~0.6m	0.1~0.6m
保護林の状況	ハリギリは大径木が4個体見られるが、天然更新は見られない。老齢木が多く風倒も散見される。	ハリギリは大径木が4個体見られるが、天然更新はほとんど見られない。	
林分等の状況	遷移の進行あり	遷移、野生動物の影響あり	
評価・課題等確認された影響	確認された影響【オ】	確認された影響【ア、オ】	
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他			
一:特になし			



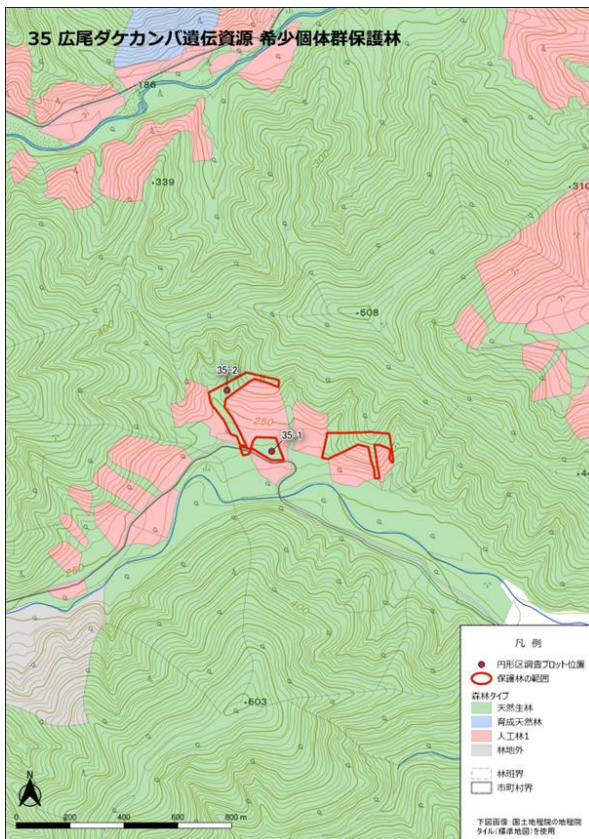
ハリギリの高木



風倒木

確認された影響 プロット1[自然攪乱]、プロット2[野生鳥獣,自然攪乱]

- ・プロット1、プロット2ともに老齢林であり、ハリギリの大木はみられるが、天然更新は少ない。
- ・風倒木が散見される。
- ・老齢林の遷移に留意が必要である。
- ・巡視・モニタリング等によりエゾシカの影響や気象害等を注視していく。



プロットNo.	35-1	35-2	
旧No.	T15-121-1	T15-121-2	
調査日	2022/6/23	2022/6/23	
標高	225m	281m	
斜面方位、傾斜(平均)	SE、2°	W、35°	
局所地形	山脚堆積面、台地	山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種 【高】植被率 【高】樹高 【高】DBH	なし 0% - -	ミズナラ、ダケカンバ 80% 12~22.5m 18~76cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカの下層植生食害多数あり、大規模な伐採あり	特になし	エゾシカ痕跡少数あり
林床植生	林床で優占する植物種 植被率 植生高	クマイザサ、クサイ 30% 0.1~1.5m	クマイザサ 100% 0.1~2.0m
保護林の状況	プロットの半分が攪乱により裸地になっている。残っているダケカンバの生育は健全であり、攪乱箇所でも多数の実生が確認された。		ミズナラが優占し、ダケカンバの個体数は少なく遷移が進んでいる。
林分等の状況	攪乱あり		遷移の進行あり
評価・課題等確認された影響	確認された影響[カ]	確認された影響[カ]	
ア: 野生鳥獣 イ: 病虫害 ウ: 外来種 エ: 温暖化 オ: 自然攪乱 カ: その他 -: 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	攪乱箇所の回復状況を頻りに確認する	引き続きモニタリングによる経過観察を行う



プロット2の林冠

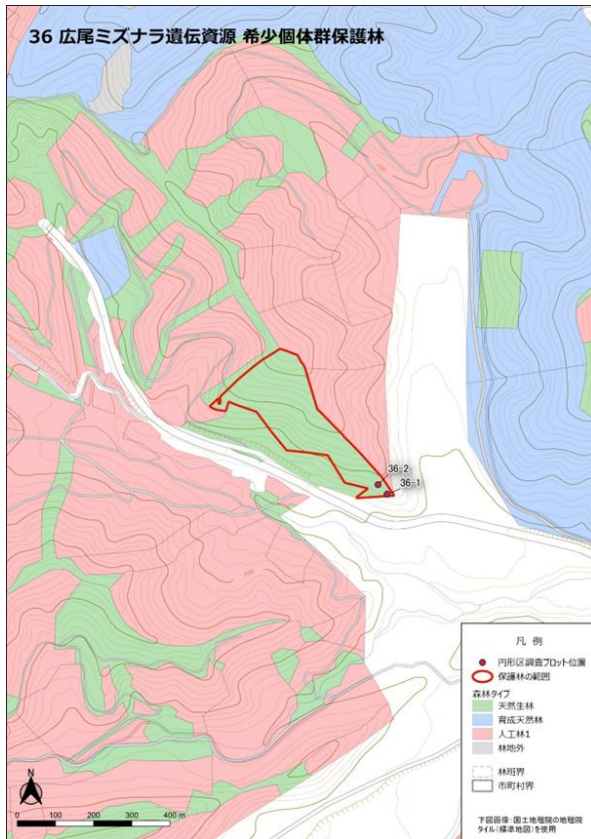
プロット1

プロット2

項目	プロット1		プロット2	
	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				
磁南方向				
磁西方向				
天頂				

確認された影響 プロット1[その他]、プロット2[その他]

- ・プロット1は、約半分の面積が攪乱。
- ・残された半分の林況に大きな変化はなかった。
- ・裸地となった箇所には、多数の実生が確認された。
- ・プロット2は、林況は健全であるが遷移が進んでおり、ミズナラ、カエデ類等の生長が確認された。
- ・林床では、広葉樹の更新が少数ではあるが確認された。
- ・攪乱箇所に関しては頻りに視察し、林分の今後の回復に留意する。



プロットNo.	36-1	36-2
旧No.	T16-122-1	T16-122-2
調査日	2022/6/24	2022/6/24
プロット情報	標高	77m
	方位、傾斜	SW、28°
	局所地形	山腹平衡斜面
【高】	主要種	ミズナラ
	植被率	90%
	樹高	12~21m
	DBH	18~43cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ痕跡わずかにあり	エゾシカ食痕わずかにあり
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ
	植被率	90%
	植生高	0.1~1.5m
保護林の状況	ミズナラは実生、萌芽が多数見られ、天然更新が順調に行われている。	ミズナラは実生、萌芽が多数見られ、天然更新が順調に行われている。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

確認された影響[特になし]

- ・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・林床ではササが密生しているが、天然更新も確認された。
- ・巡視・モニタリング等によりエゾシカの影響や気象害等を注視していく。

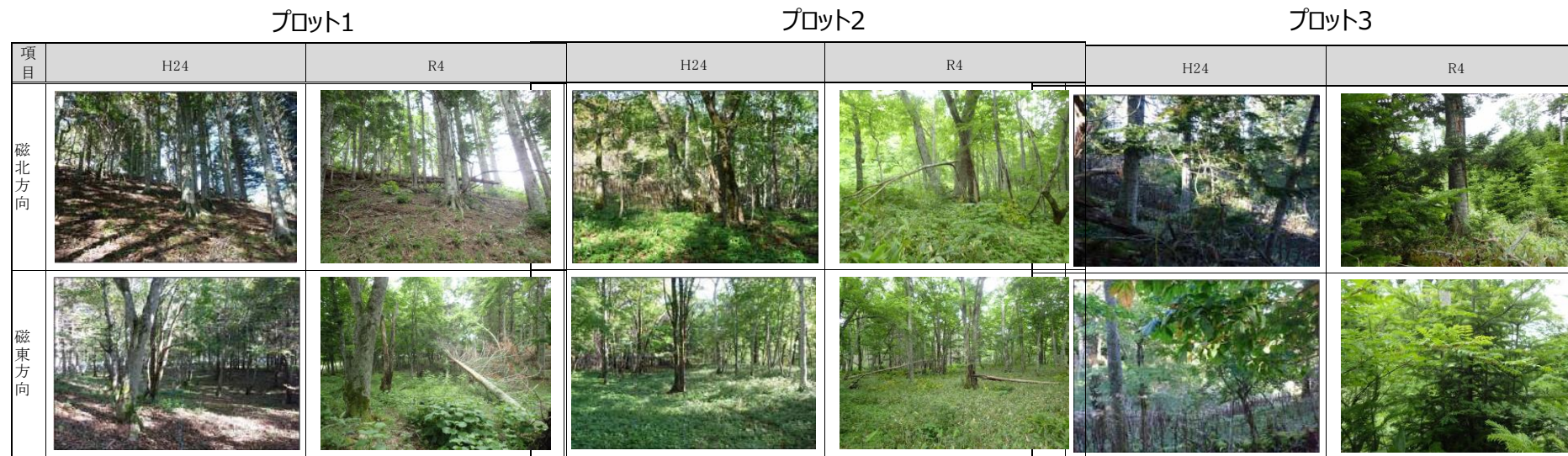
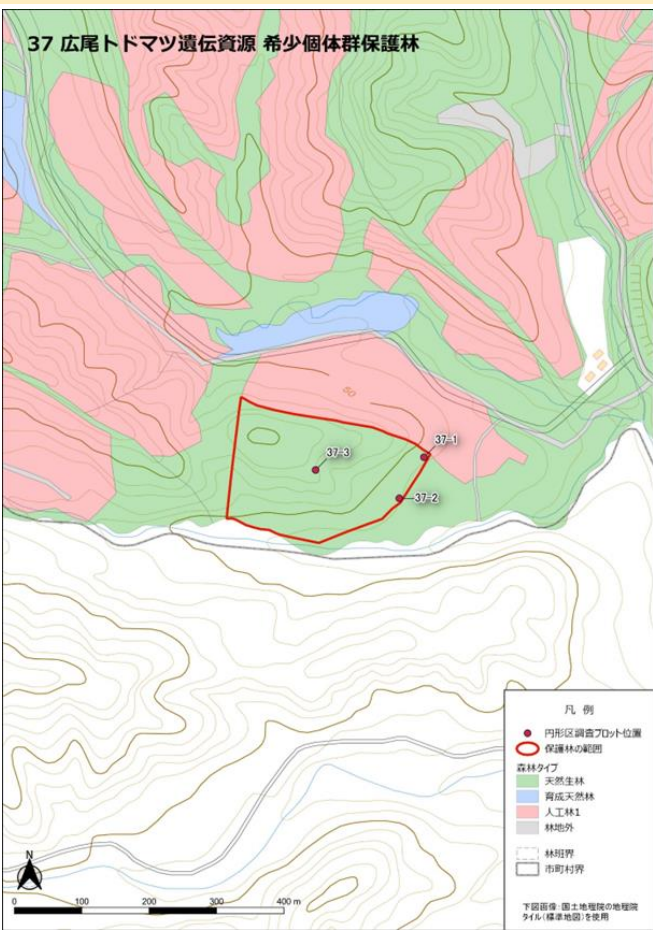


ミズナラの萌芽

プロット1

プロット2

項目	プロット1		プロット2	
	H24	R4	H24	R4
磁北方向				
磁東方向				
磁南方向				
磁西方向				
天頂				



風害の状況 (プロット3)



トドマツの実生 (プロット3)

プロットNo.	37-1	37-2	37-3	
旧No.	T17-123-1	T17-123-2	T17-123-3	
調査日	2022/6/23	2022/6/23	2022/6/23	
プロット情報	標高	40m	44m	82m
	斜面方位、傾斜(平均)	SE、10°	SE、5°	NE、24°
	局所地形	山腹平衡斜面	台地	山腹凸斜面
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ	ハルニレ、キハダ	シナノキ、トドマツ
	【高】植被率	70%	90%	20%
	【高】樹高	12~31m	12~29m	15~25m
	【高】DBH	19~55cm	18~64cm	25~90cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ痕跡多数あり	エゾシカ痕跡複数あり	風害、エゾシカ痕跡多数あり	
林床植生	林床で優占する植物種	フツクソウ、スゲ属の一種	クマイザサ	クマイザサ
	林床植生密度[B1]	疎生または散在している	密生している	密生している
	植被率 植生高	60% 0.1~1.5m	90% 0.1~1.4m	90% 0.1~1.8m
保護林の状況	エゾシカの痕跡が多くトドマツへの影響もやや見られるが、天然更新は順調に行われている。	トドマツの成木は見られないが、稚樹は少数見られる。ササの侵入が進んでいる。	風害の影響が大きく、トドマツは少数のみ残っている。エゾシカの痕跡も多いが、天然更新は旺盛に行われている。	
林分等の状況	野生動物の影響あり	遷移の進行、野生動物の影響あり	野生動物、気象害の影響あり	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[オ]	
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	

確認された影響 プロット1、プロット2 確認された影響[特になし]

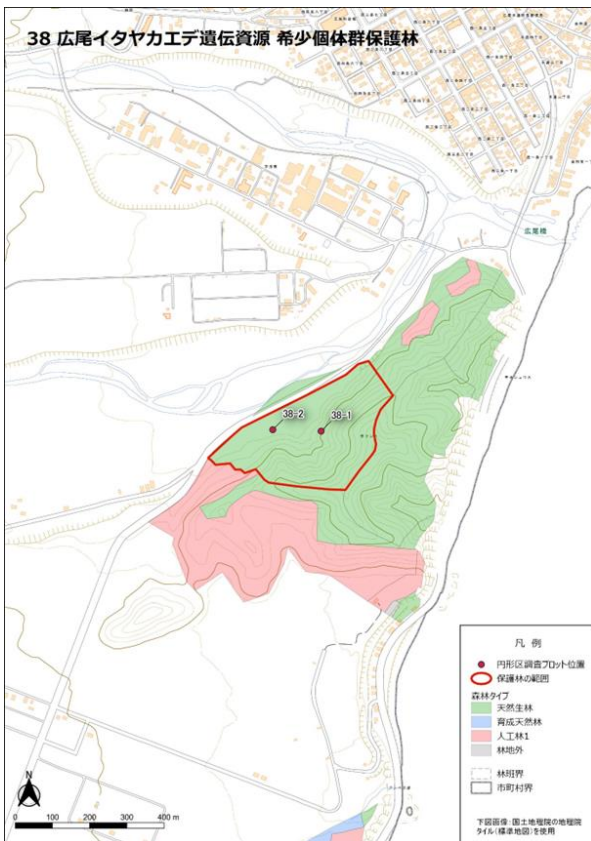
- プロット1、プロット2では、林況に大きな変化はなく天然更新もみられ健全な状態といえたが、エゾシカの痕跡が多く今後留意が必要である。

プロット3[自然攪乱]

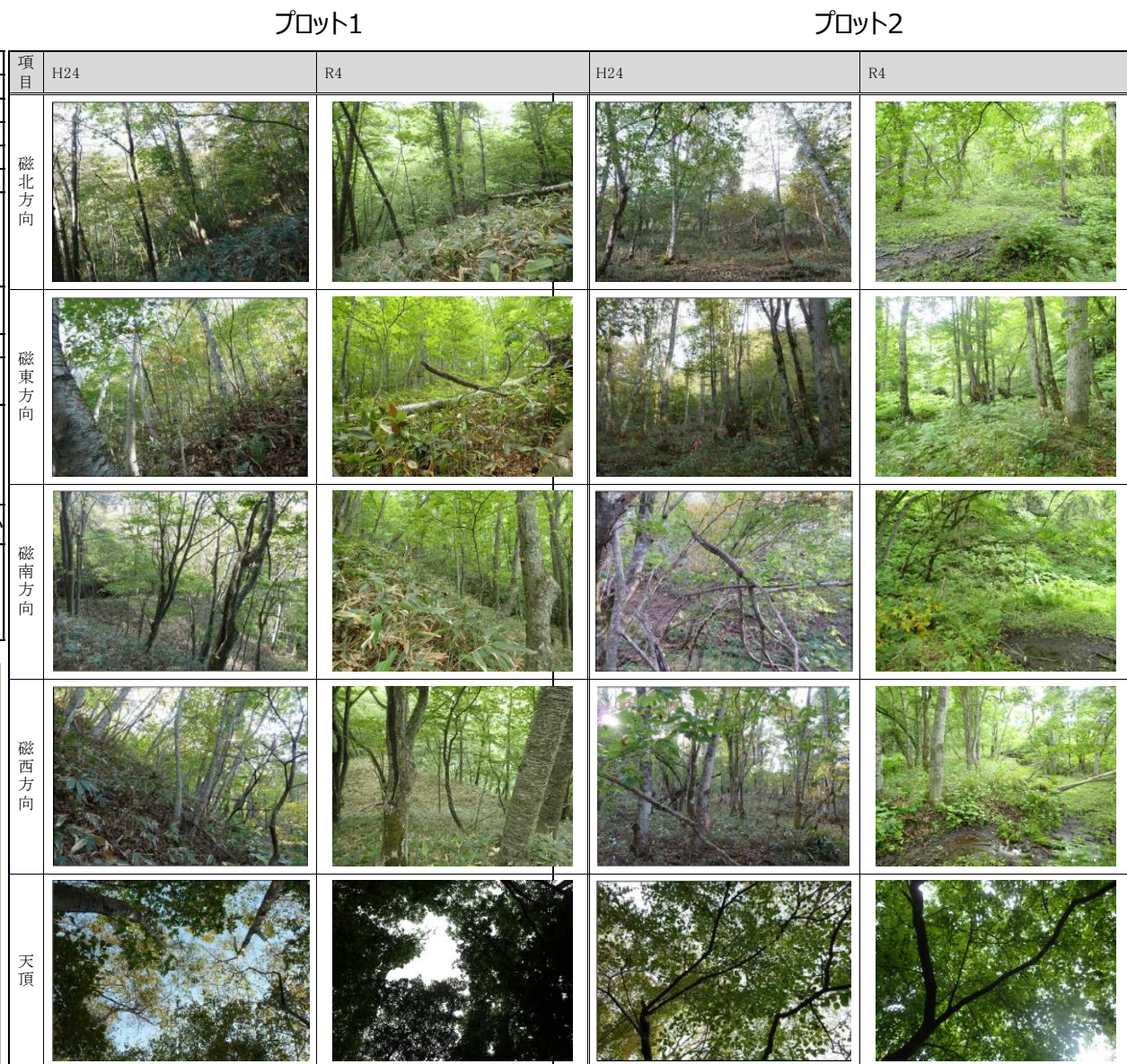
- 大規模な風害があったが、天然更新は旺盛である。
- 巡視・モニタリング等によりエゾシカの影響や気象害等を注視していく。

3-3.希少個体群保護林 (7/7)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況	調査周期	評価・課題・対応(案)
38	32004	広尾イタヤカエデ遺伝資源希少個体群保護林 (9ha)	イタヤカエデ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、イタヤカエデがやや少ないが、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが薄い箇所もあり、イタヤカエデの天然更新はみられなかったが、その他の樹種の天然更新は確認された。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
39	32005	尾田第2ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林 (2ha)	ミズナラ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・プロット2では、ややシカの痕跡が多かったが、両プロットとも天然更新は多数みられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
40	32006	尾田第1カシワ遺伝資源希少個体群保護林 (5ha)	カシワ	H24	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。 ・林床ではササが密生しているため天然更新は少なかったが、埋土種子は多数存在していると考えられる。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
41	30111	天狗岳高山植物希少個体群保護林 (177ha)	高山植物	R2	・森林詳細調査 小円植生調査のみ2箇所 ・植生方形区調査(2箇所)	・定山溪天狗岳の山頂部の植生状況に大きな変化はなく、高山植物の生育も確認された。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

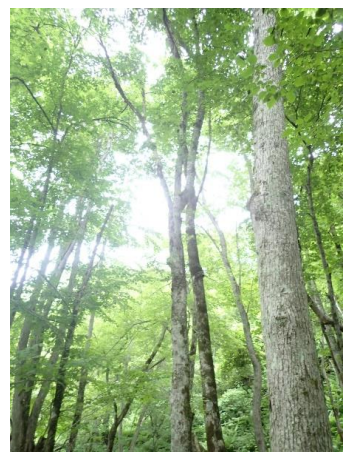


プロットNo.	38-1	38-2
旧No.	T18-124-1	T18-124-2
調査日	2022/6/22	2022/6/22
標高	82m	20m
方位、傾斜	NW、39°	NE、2°
局所地形	山腹侵蝕面	湿地・平坦地
【高】主要種	シナノキ、ホオノキ	ケヤマハンノキ
【高】植被率	60%	80%
【高】樹高	12~22m	8~32m
【高】DBH	18~58cm	16~54cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ痕跡少数あり	エゾシカ痕跡複数あり
林床植生	林床で優占する植物種 クマイザサ 植被率 90% 植生高 0.1~1.3m	オシダ 80% 0.1~1.5m
保護林の状況	シナノキ、ホオノキなどが優占しイタヤカエデは少ない。林分の状態は健全である。	イタヤカエデは亜高木層以下に散見されるが天然更新は見られない。他種の天然更新は見られる。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う

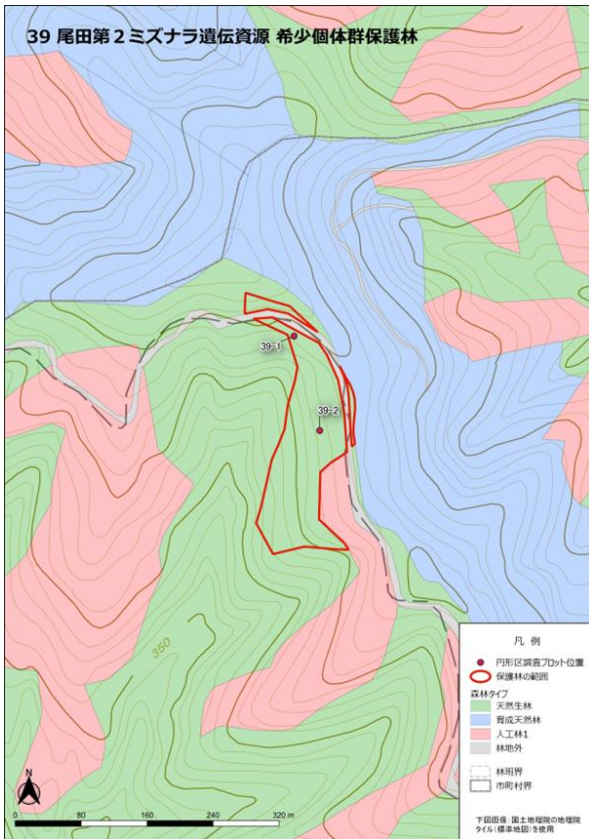


確認された影響 [特になし]

- ・プロット1、プロット2ともに、イタヤカエデがやや少ないが、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・林床ではササが薄い箇所もあり、イタヤカエデの天然更新はみられなかったが、その他の樹種の天然更新は確認された。
- ・巡視・モニタリング等によりエゾシカの影響や気象害等を注視していく。



イタヤカエデの垂高木



プロットNo.	39-1	39-2	
旧No.	T13-119-1	T13-119-2	
調査日	2022/6/22	2022/6/22	
プロット情報	標高	488m	464m
	方位、傾斜	SW、34°	W、28°
	局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
林分状況	【高】主要種	ミズナラ	ミズナラ
	【高】植被率	90%	90%
	【高】樹高	10~25m	10~26m
	【高】DBH	20~46cm	16~49cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	エゾシカ痕跡わずかにあり	エゾシカ痕跡多数あり	
林床植生	林床で優占する植物種	ミヤコザサ	ミヤコザサ
	植被率	90%	60%
	植生高	0.1~1.0m	0.1~0.8m
保護林の状況	林床はササが密生するが、ミズナラ実生は多く見られ天然更新は順調に行われている。	エゾシカの痕跡が多く見られるが、ミズナラ実生は多く見られ天然更新は順調に行われている。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ク:特になし			

プロット1

プロット2

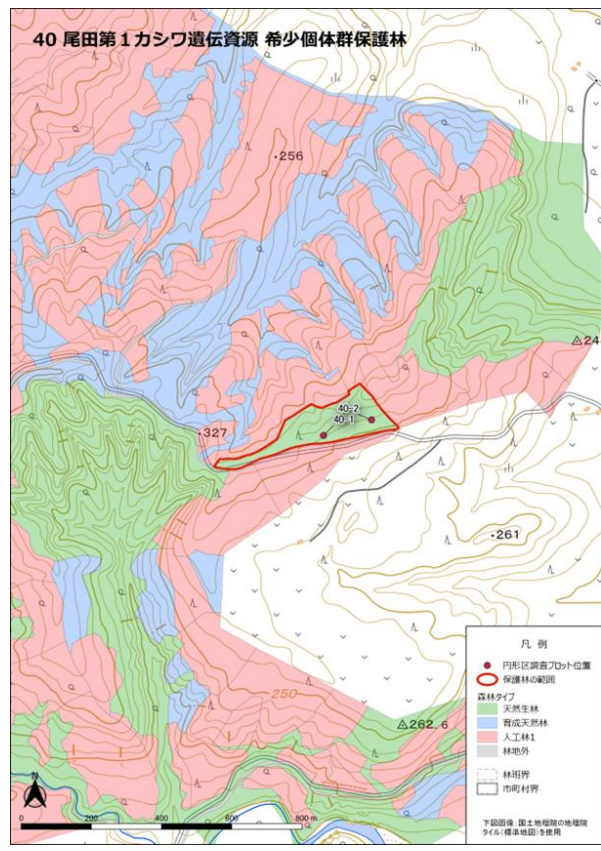


確認された影響 [特になし]

- ・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・プロット2では、ややシカの痕跡が多かったが、両プロットとも天然更新は多数みられた。
- ・巡視・モニタリング等によりエゾシカの影響や気象害等を注視していく。



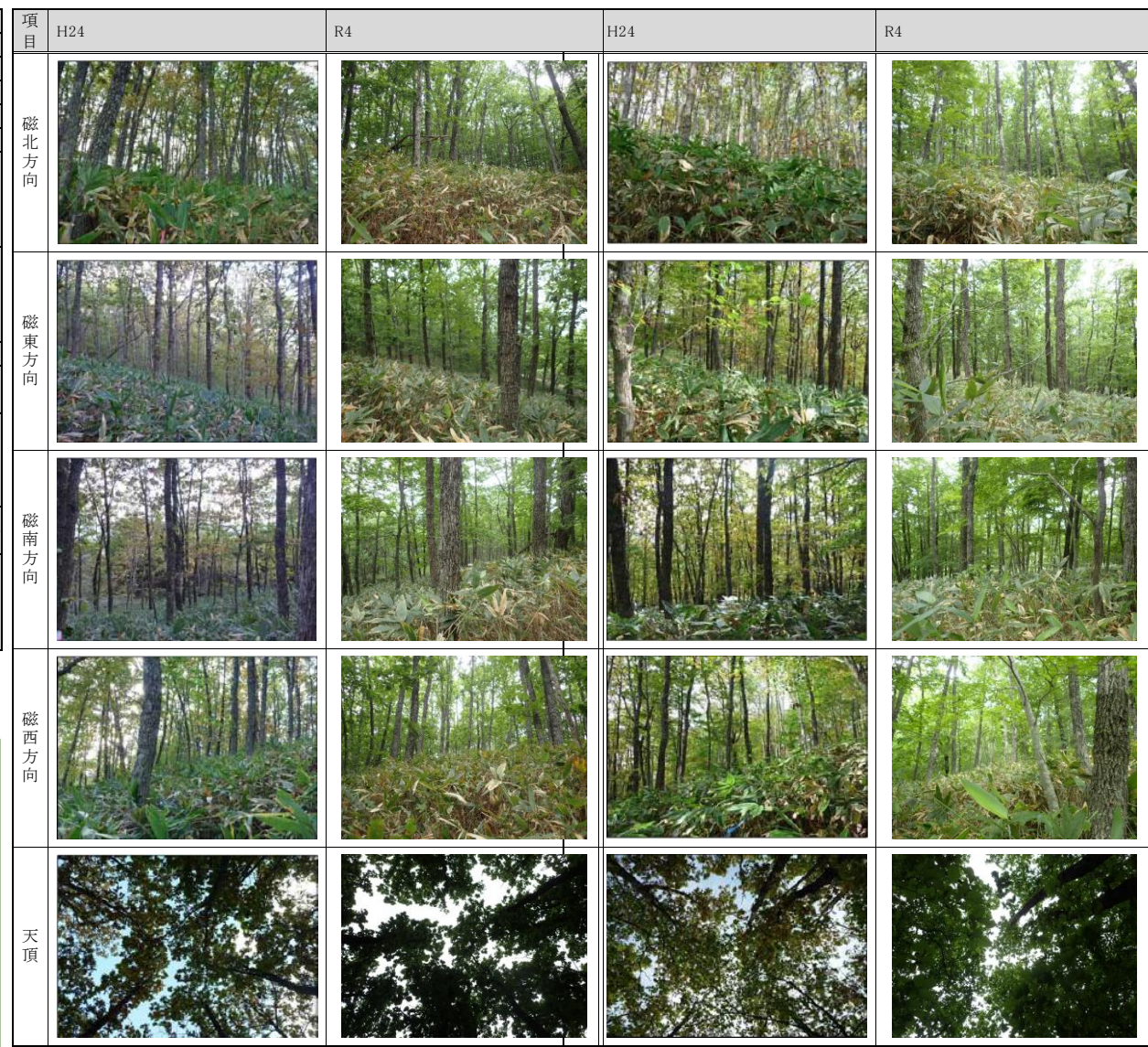
ミズナラの萌芽



プロットNo.		40-1	40-2
旧No.		T14-120-1	T14-120-2
調査日		2022/6/22	2022/6/22
標高		311m	322m
プロット情報	方位、傾斜	SE、22°	SE、15°
	局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
【高】主要種		カシワ	カシワ
【高】植被率		80%	80%
【高】樹高		8~21m	12~20m
【高】DBH		16~54cm	17~38cm
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント		エゾシカ食痕わずかにあり	エゾシカ食痕わずかにあり
林床植生	林床で優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	100%	100%
	植生高	0.1~1.5m	0.1~2.0m
保護林の状況		カシワの天然更新は少ないが、立木の生育は健全である。	カシワの天然更新は少ないが、立木の生育は健全である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロット1

プロット2



カシワの高木

確認された影響 [特になし]

- ・プロット1、プロット2ともに、林況に大きな変化はなく健全な状態といえた。
- ・林床ではササが密生しているが、埋土種子は多数存在していると考えられる。
- ・巡視・モニタリング等によりエゾシカの影響や気象害等を注視していく。

希少種情報のため非公開

希少種情報のため非公開

4 森林概況調査等マニュアルの改良について - 現行の調査票 -

森林概況調査票 (R3版) その1

調査月日	西暦	年	月	日	()	森林管理署		森林管理署
天候			時刻			森林事務所		森林事務所
保護林番号						調査者所属		
保護林名	森生 生群 希個					氏名		
地点名								
※過年度調査プロットの中心点(黄色枠等)まで行き調査を実施する。								
※該当する□にチェックを入れる。チェック漏れのないよう確認すること。								
※調査位置の位置・地形等は、過年度調査情報を参考とし、現地で再確認する。現地調査の際には、過年度調査票を持参する。								
現地調査の位置・地形等								
林小班	林班 小班	標高	m	斜面方位		斜面傾斜	°	
調査位置 (座標値) ※度分秒標記	N E			GPS取得確認 (世界測地系)		□既存7-DotNo. () □新規地点		
局所地形	<input type="checkbox"/> 平坦尾根 <input type="checkbox"/> やせ尾根 <input type="checkbox"/> 山腹凸斜面 <input type="checkbox"/> 山腹凹斜面 <input type="checkbox"/> 山腹平衡斜面 <input type="checkbox"/> 山腹侵蝕面 <input type="checkbox"/> 山脚堆積面 <input type="checkbox"/> 崖壁 <input type="checkbox"/> 扇状地 <input type="checkbox"/> 洪濁地 <input type="checkbox"/> 沖積堆積地 <input type="checkbox"/> 洪積段丘 <input type="checkbox"/> 台地 <input type="checkbox"/> 湿地 <input type="checkbox"/> 平坦地							

森林概況調査票 (R3版) その2

林床植生について								
林床植生	<input type="checkbox"/> ササ類主体 <input type="checkbox"/> 草本類主体 <input type="checkbox"/> 低木類主体 <input type="checkbox"/> 各種混在 <input type="checkbox"/> 該当なし ※主体とは林床のおおむね80%以上を占めている状態とする。							
優占する植物種 (複数可)		植被率 (%)		林床植生高	~	m		
天然更新状況	<input type="checkbox"/> 保護対象種の実生の天然更新が見られる <input type="checkbox"/> 保護対象種の低木の天然更新が見られる (天然更新木: 樹高2.0m以上) <input type="checkbox"/> 保護対象種の実生の天然更新が少ない・見られない <input type="checkbox"/> その他天然更新木が少ない・見られない (目安5本/100㎡以下)							
萌芽・下枝	高さ2m以下に出ている下枝や萌芽 <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> 少ないか、ほとんどない (目安5本/100㎡以下)							
写真撮影								
項目	全天球写真	東、西、南、北、天頂	保護対象種	天然更新	動物の影響	気象害	その他	
	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	

← 現行の調査票

・R3年度の改良で、**簡易群落組成調査**というべき**データ項目(階層ごとの植被率、樹高等の記録)**を取得するようにした。



取りまとめ表(下表)を見ただけで、樹林の状況が層ごとに把握出来るようになった。
→ 前回調査からの変化状況が分かりやすい。

森林詳細調査を行わない箇所(箇所の)の森林概況調査ではモニタリングの有効な方法となると考えられる。

森林概況

林相	<input type="checkbox"/> 針葉樹林 <input type="checkbox"/> 広葉樹林 <input type="checkbox"/> 針広混交林 (広葉樹多い、針葉樹多い、針広同程度) ※多いは材積歩合80%以上の状態とする。			
	階層区分	高木層	亜高木層	低木層
	主要構成樹種 (複数可)			
	植被率 ^注 (%)			
	樹高 (m)	~	m	~
胸高直径 (cm)	~	cm	~	cm
最大樹高	最大樹高 (樹種 / 樹高 m)、最大胸高直径 (樹種 / DBH cm)			
保護対象種の本数割合	<input type="checkbox"/> 80%以上を占める <input type="checkbox"/> 50~80%を占める <input type="checkbox"/> 20~50%を占める <input type="checkbox"/> 20%以下を占る <input type="checkbox"/> ほとんど見られない <input type="checkbox"/> 保護対象種なし			
周辺環境 (複数可)	<input type="checkbox"/> 天然林と隣接 <input type="checkbox"/> 人工林と隣接 <input type="checkbox"/> 沢を含む <input type="checkbox"/> 沢と隣接 <input type="checkbox"/> 畑と隣接 <input type="checkbox"/> 牧草地と隣接 <input type="checkbox"/> 林道等と隣接			
擾乱状況 (程度)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 【 <input type="checkbox"/> 風倒 () <input type="checkbox"/> 雪 () <input type="checkbox"/> 凍裂 () <input type="checkbox"/> 落雷 () <input type="checkbox"/> 洪水 () <input type="checkbox"/> 火災 () <input type="checkbox"/> その他 () 】			
病虫害	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 【 <input type="checkbox"/> 松くい虫 <input type="checkbox"/> ナラ枯損 <input type="checkbox"/> カミキリムシ類 <input type="checkbox"/> カラマツ先枯病 <input type="checkbox"/> カイガラムシ <input type="checkbox"/> その他】			
獣類の痕跡	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 【 <input type="checkbox"/> ネズミ類 <input type="checkbox"/> エゾシカ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input type="checkbox"/> その他 () 】			
シカの痕跡 (主にプロット内)	<input type="checkbox"/> シカの痕跡 <input type="checkbox"/> シカ道 <input type="checkbox"/> 足跡 <input type="checkbox"/> フン <input type="checkbox"/> 食痕 <input type="checkbox"/> 剥皮 <input type="checkbox"/> 骨・死体 <input type="checkbox"/> 角研 <input type="checkbox"/> ブラウジングライン <input type="checkbox"/> シカの痕跡なし			
	<input type="checkbox"/> シカの姿または鳴声の確認 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (頭)			
	保護対象種への痕跡		<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (約 本/プロット)	
	角こすりが見られる		<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (約 本/プロット)	
	【シカによる樹木の痕跡】 樹皮の食痕(樹皮剥ぎ)が見られる		<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (約 本/プロット)	
頂芽の食痕が見られる		<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (約 本/プロット)		
下枝、萌芽枝、稚樹などのシカの食痕		<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (約 本/プロット)		
<input type="checkbox"/> シカによる下層植生の食痕 <input type="checkbox"/> 多い <input type="checkbox"/> わずかにある <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 食痕がわからない				

保護林の状況で気づいたこと(自由記述)

※保護林内経路上のシカ食痕、保護対象種の分布、希少植物種、風倒木等の擾乱状況など	
※調査プロット及び周辺における擾乱状況、気象害・病虫害・獣類の痕跡等について、あればその程度注を記述	

注) 植被率: 単位面積当たりにおいて、植生が各階層を占める面積の割合であり、目視観察により求める。

注) 程度: 軽微 (5%未満)、小 (25%以下)、中 (50%以下)、大 (51%以上)

Ver. 20220228

地点名		〇〇
調査日		2022/〇/〇
プロット情報	標高	650m
	斜面方位、傾斜(平均)	S、22°
	局所地形	山腹凸斜面
林分状況	林相	落葉広葉樹林(天然生林)
	【高】主要構成樹種	ブナ
	【高】樹高	10~20m
	【高】植被率	70%
	【高】DBH	25~40cm
	【垂】主要構成樹種	ミズナラ
	【垂】樹高	7~10m
	【垂】植被率	30%
	【垂】DBH	10~20cm
	【低】主要構成樹種	リョウブ
【低】樹高	2~5m	
【低】植被率	80%	
【草】優占する植物種	ハイイヌツゲ	
【草】高さ	0.1~2m	
【草】林床植生密度	10~20%	

※表内青字は記載例

取りまとめ表イメージ

次回の森林概況調査票(案)とさらなる改良点

森林概況調査票(R4版) その1

調査年月日	年 月 日	管轄の森林管理者	森林管理者
保護林NoとプロットNo		調査者所属	
保護林名	森生 生群 希樹 氏名 ※全員記入		

※原則として過年度調査プロットの中心点(黄色杭等)まで行き調査を実施する。
 ※該当する□にチェックを入れる。チェック漏れのないよう確認すること。
 ※調査位置の位置・地形等は、過年度調査情報を参考とし、現地で再確認する。現地調査の際には、過年度調査票を参照する。

現地調査の位置・地形等

林小班	林班 小班	標高	m	斜面方位	斜面傾斜	
調査位置 (座標値) ※度分秒種記	N E			GPS取得確認 (Noを記入)	プロットの再現	<input type="checkbox"/> 既存 <input type="checkbox"/> 新規
局所地形	<input type="checkbox"/> 平坦尾根 <input type="checkbox"/> やせ尾根 <input type="checkbox"/> 山腹凸斜面 <input type="checkbox"/> 山腹凹斜面 <input type="checkbox"/> 山腹平斜面 <input type="checkbox"/> 山腹侵蝕面 <input type="checkbox"/> 山脚堆積面 <input type="checkbox"/> 崖壁 <input type="checkbox"/> 扇状地 <input type="checkbox"/> 洪沼地 <input type="checkbox"/> 沖積堆積地 <input type="checkbox"/> 洪積段丘 <input type="checkbox"/> 台地 <input type="checkbox"/> 湿地 <input type="checkbox"/> 平坦地					

森林概況

林相	<input type="checkbox"/> 針葉樹林 <input type="checkbox"/> 広葉樹林 <input type="checkbox"/> 針広混交林(広葉樹多い、針葉樹多い、針広同程度) ※多いは材積歩合80%以上の状態とする。			
	階層区分	高木層	亜高木層	低木層
	主要構成樹種 (種数可)			
	植被率 ¹⁾ (%)	%	%	%
	樹高(m)※整数	~ m	~ m	~ m
胸高直径(cm)※整数	~ cm	~ cm	~ cm	
最大樹高、胸高直径	最大樹高(樹種) / 樹高(m)、最大胸高直径(樹種) / DBH(cm) ※小数点第1位まで種記			
保護対象種の 本数割合	<input type="checkbox"/> 80%以上 <input type="checkbox"/> 50~80% <input type="checkbox"/> 20~50% <input type="checkbox"/> 20%以下 <input type="checkbox"/> 保護対象種なし			
周辺環境(種数可)	<input type="checkbox"/> 天然林と隣接 <input type="checkbox"/> 人工林と隣接 <input type="checkbox"/> 草地と隣接 <input type="checkbox"/> 農地と隣接 <input type="checkbox"/> 林道等と隣接 <input type="checkbox"/> 沢と隣接			
気象害	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 風害(風倒、幹折れ等) <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 雪害(雪圧害、雪崩等) <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 低温害(霜害、凍裂等) <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <small>※被害立木割合 軽微(5%未満)、小(5~20%)、中(20~50%)、大(50%以上)</small>			
病虫害	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 一部位 : <input type="checkbox"/> 葉及び新梢部 <input type="checkbox"/> 枝及び幹 <input type="checkbox"/> 根 <input type="checkbox"/> その他() 一原因等 : <input type="checkbox"/> 松くい虫 <input type="checkbox"/> ナラ枯れ <input type="checkbox"/> かみゆび類 <input type="checkbox"/> その他()			
鳥獣類の痕跡 (主にプロット内)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> ヒグマ <input type="checkbox"/> ネズミ類 <input type="checkbox"/> ウサギ類 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> エゾシカ → エゾシカのみ下記に詳細を記録	<input type="checkbox"/> シカ道 <input type="checkbox"/> 足跡 <input type="checkbox"/> 糞 <input type="checkbox"/> 角研ぎ痕 <input type="checkbox"/> 食痕 <input type="checkbox"/> 骨・死体 <input type="checkbox"/> 個体の目視または鳴声(頭) <input type="checkbox"/> その他() [樹木への痕跡] <input type="checkbox"/> 保護対象種への痕跡 <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 角研ぎ痕 <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 樹皮の食痕(剥皮) <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 頂芽の食痕 <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 下層植生の食痕 <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 大 <small>※痕跡の割合 軽微(5%未満)、小(5~20%)、中(20~50%)、大(50%以上)</small>		

注) 植被率: 単位面積当たりにおいて、植生が各階層を占める面積の割合であり、目視観察により求める。

気象害、病虫害、鳥獣類の痕跡の記入欄について、表記揺れや繰り返しがあった部分を修正。

その他、記載セル、その幅etcを微修正。

林床と天然更新の記入欄について、表記揺れや繰り返しがあった部分を修正。

写真整理がしやすくなるようにNoを入れる欄を作成。

森林概況調査票(R4版) その2

林床植生について		保護林No & プロットNo	
主要構成種	<input type="checkbox"/> ササ類 <input type="checkbox"/> 草本類 <input type="checkbox"/> 低木類 <input type="checkbox"/> 各種混在 <input type="checkbox"/> その他	植被率(%)	%
優占する植物種(種数可)		林床植生高	~ m
天然更新状況	保護対象種	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 多い <input type="checkbox"/> 普通にみられる <input type="checkbox"/> 少ない 一確認内容 : <input type="checkbox"/> 低木 <input type="checkbox"/> 幼木・稚樹 <input type="checkbox"/> 実生 <input type="checkbox"/> 萌芽・下枝	
	保護対象種以外	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 多い <input type="checkbox"/> 普通にみられる <input type="checkbox"/> 少ない 一確認内容 : <input type="checkbox"/> 低木 <input type="checkbox"/> 幼木・稚樹 <input type="checkbox"/> 実生 <input type="checkbox"/> 萌芽・下枝	

写真撮影

項目 (撮影した時は写真Noを記入)	東、西、南、北、天頂 ※必須	保護対象種 ※あれば必須	天然更新 ※あれば必須	気象害 ※あれば必須
	<input type="checkbox"/> あり [] <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり [] <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり [] <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり [] <input type="checkbox"/> なし
	林床植生	動物の影響	全天球写真	その他()
<input type="checkbox"/> あり [] <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり [] <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり [] <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり [] <input type="checkbox"/> なし	

保護林の状況で気づいたこと(自由記述)

※保護林内の健全度、天然更新、希少種、気象害・病虫害・獣類の痕跡等について、詳細を記述する。

※下記の項目について、留意することが望ましい。

- ・保護林の健全度
- ・保護対象種の生育状況
- ・天然更新状況
- ・林床植生
- ・希少種や特徴的な植生
- ・動物による影響(食痕、足跡や糞など)
- ・気象による攪乱等
- ・保護林内移動中に気づいたこと等

※その他、写真を複数取った場合(写真撮影の項に収まらない場合は)、この自由欄に写真内容とNoを記録しておくこと。